

## 【全員協議会】

平成29年8月10日（木）

午後1時30分 開会

### 議長

ただいまから、全員協議会を開会します。議員各位におかれましては、ご多忙のところご参集いただきまして、ありがとうございます。

本日は、7月22日からの大雨による被害とその対応について、執行部から説明を受け、それに対する質疑を行うため、この会議を開催したところであります。

さて、本会議は、秋田県議会会議規則第129条に基づく「協議又は調整を行うための場」として定められております。そのため、会議を進行するに当たり、まず、座長を選出する必要があります。これまでの例では、議長が、この会議を進行しておりましたが、今回も、引き続き、議長が座長を務めることとしてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

### 議長

それでは、議長が、座長として会議を進行します。

### 座長（議長）

次に、席順についてですが、席順は、ただいま着席しているとおり決定して御異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

### 座長（議長）

御異議ないものと認め、席順はただいま着席しているとおりとします。

次に、会議の傍聴についてですが、規程により、座長の許可を得た者が傍聴できるようになっておりますので、報道機関等の傍聴は認めることとします。

次に、本日の会議の進め方ですが、冒頭、執行部に説明を求め、その後、会派ごとに質疑を行うという形で進行したいと思いますので、よろしくお願いします。

初めに、佐竹知事から発言を求められておりますので、これを許可します。

### 知事

状況説明に入ります前に、今回の大雨災害において私自身の極めて至らぬ行動により県政に対する信頼を損ねたことに対し、被災されました皆様はもとより県民の皆様、そして県議会議員の皆様にご心からお詫びを申し上げます。

今回の事案において、私の初期対応や状況判断の甘さ、更には当初真実を語らなかったこと、二重に失態を重ね、お詫びの言葉を重ねるだけでは済まないことは重々承知しており、また県政に対する信頼を取り戻すことも容易ではないものと改めて自身の不明さに恥じ入っている次第でございます。各方面からの厳しい御叱責は当然であります。かくなる上は今回の失態をしっかりと心に刻み、深く反省し、全力で災害の復旧、復興に取り組むとともに、多くの県政課題の解決に向けて全力を尽くすことが私の責務と捉え、改めて初心に戻り、厳しく身を律しながら謙虚な姿勢で県政運営に全身全霊を傾けてまいらる覚悟

でございます。重ねてこのたびの不始末を心からおわび申し上げます。

それでは、私から概略を説明申し上げます。まずもって今般の水害で被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。それでは、大雨災害の復旧、復興に向けた取組状況や今後の復旧方向について概略を説明いたします。

まず、国からの視察動向でございます。復旧、復興に向けた取組としましては、先月末、石井国土交通大臣、自由民主党豪雨災害対策ワーキングチームとともに被災地の視察を実施いたしております。石井国土交通大臣には秋田新幹線の復旧状況や公共施設、雄物川等の浸水被害状況、自由民主党豪雨災害対策ワーキングチームには農地、農業用施設、共同利用施設等の被災状況をごらんいただくとともに、早期の激甚災害指定や復旧、復興支援を強く要請したところでございます。また、単独で現地視察されました公明党井上幹事長にも直接支援要請を行っております。

国への要望でございます。私自身も大仙市や横手市、秋田市、由利本荘市、三種町の被災した住宅や商店街等を視察した状況を踏まえ、8月7日には被災地の市長や副市長、県関係国会議員とともに菅内閣官房長官、齋藤農林水産大臣、石井国土交通大臣のほか、総務省や自民党本部を訪問し、激甚災害の指定、被災者生活再建支援制度や災害救助法の柔軟な運用に加え、公共土木災害、農林災害等の復旧事業の早期採択、県、市町村への財政支援等を強く要望したところであります。

こうした活動が実を結び、8月8日の閣議決定により、本日全国の豪雨及び暴風雨による災害とともに本県の災害につきましても激甚災害に指定され、農地、農業用施設等の災害復旧事業に対し、国庫補助率のかさ上げ等の支援措置が設けられております。県としても国や被災市町村と連携しながら、道路、河川などの各種被災施設の復旧とともに、住民生活の安定の確保や農林漁業者等の経営再建に全力で取り組んでいくつもりでございます。

私からは以上でございます。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

続きまして、私からは大雨による被害状況及びその対応について、全員協議会資料により御説明いたします。

初めに、1の「気象情報の発表状況等」についてであります。停滞した梅雨前線の影響により、7月22日の未明から県内の全域において記載のような警報等が発表され、県内17地点において観測史上最多の降雨を観測するなど記録的な豪雨となりました。

この豪雨によりまして、次の2ページ、2の「被害状況等」についてであります。①の人的被害につきましても幸いなかったものの、②の建物等の被害につきましても、住家については大仙市など17の市と町において、事業所につきましても横手市、大仙市など県南部を中心に多くの被害が生じたところであります。

次の3ページ、③、「農林水産被害」、次の4ページ、④、「公共土木施設被害」につきましても、後ほど担当部長が御説明申し上げます。

5ページをごらんいただきます。⑧の「ライフライン被害」につきましても、7市1町において停電が発生したほか、水道につきましても6市において断水や水質異常などが生じたところであります。

また、⑨の「観光への影響」につきましても、県内の主要宿泊施設に対する聞き取

り調査では、多くの施設においてキャンセルが発生し、風評被害対策としてウェブサイトによる情報発信やエージェントに対する個別訪問等を行っているところであります。

6 ページをごらんください。3 の「警戒体制等」のうち、(1) の「県の体制」につきましては、7 月 22 日の午前、土砂災害警戒情報の発表と同時に災害連絡室を設置し、大仙市に災害救助法が適用されたことに伴い、7 月 28 日には災害対策本部に改組しております。また、これまで 7 回にわたりまして、知事を初め各部局長で構成する庁内連絡会議や災害対策本部会議を随時開催し、被災者等への支援や被災地の復旧などに取り組んでいるところであります。

1 ページ飛びまして、8 ページをごらんください。6 の「災害復旧や被災者支援に向けた取組」についてであります。が、(1) の「国への対応等」につきましては、先ほど知事が概要をお話ししましたので省略いたします。

また、(2) の「農林水産被害への対応」、10 ページの(3)、「公共土木施設被害への対応」につきましても後ほど担当部長が御説明申し上げます。

資料 1 1 ページをごらんください。(4) の「被災者への支援」につきましては、(ア)、住家が全半壊及び床上浸水した世帯に見舞金を支給するとともに、(エ) の住宅リフォーム推進事業については、過去に事業を利用した住宅の復旧工事も対象に補助金を交付するほか、(カ) にありますとおり県や関係機関で構成する組織により、8 月末まで義援金の募集を行っております。

12 ページをごらんください。(5) の「被災した中小企業者への支援」としましては、経営等に関する特別相談窓口を設置するとともに、制度融資の特別枠の設定による金融支援を行っております。

最後に、7 の「この度の災害を踏まえた危機管理体制の見直し」についてであります。このたびの大雨災害におきましては、知事への情報伝達や幹部職員による情報の共有、状況に応じた警戒態勢の在り方などについて様々な課題が明らかになりましたので、体制の見直しを行うことといたしました。

まず、(1) の「知事への情報伝達方法」の見直しにつきましては、情報を確実に伝達するため、重要な情報については電話等により直接口頭で伝えることを徹底するほか、メールを送る場合は他のメールとの差別化を図るとともに、受信を必ず確認することにいたしました。また、伝達した内容については、幹部職員で共有を図ることといたしました。

(2) の「知事の所在の把握」につきましては、公務外においても知事の所在を確認し、幹部職員でその情報を共有することにいたしました。

(3) の「気象情報等のメール配信職員の拡大」につきましては、これまで職員の希望による登録制としてきたメール配信を課長級以上の職員については登録を義務化いたしました。

(4) の「災害対策本部等設置基準の運用の明確化」につきましては、災害対策本部などの体制を適時的確に設置できるよう、自動的に設置する場合以外の運用に関して避難勧告等の発令状況などの客観的な事実に基づく運用上の判断基準を策定することにいたしました。

危機管理体制につきましては、今後とも様々な観点から問題意識を持ちながら必要な見直しを行ってまいりたいと考えております。

私からの説明は以上であります。

### **農林水産部長**

それでは、資料の３ページをごらんください。農林水産関係の被害の状況等につきまして、私から説明をさせていただきます。

昨日現在で被害総額が８３億円強となっています。このうち特に被害が大きかった仙北、秋田、平鹿地域で全県の８割を占めている状況にあります。大仙市の農業用の施設等で、まだ一部調査は残っていますが、調査は、ほぼ終了しつつありまして、最終的には９０億円前後と見込んでいます。内訳につきましては、表にありますように一番上の「農作物」で１５億円、それから中段からやや下のほうに記載しておりますが、土砂の流入による畦畔（耕地間の境のこと）、のり面崩壊等で「農地」の被害額は１５億円、その下の「農業用施設」で３１億円ということで、農地、農業用施設で４６億円に上っています。それから、一番下段の林業関係で約２０億円という状況になっています。

続きまして、恐れ入りますが、資料の８ページをお開きください。こうした被害状況の対応についてですが、（ア）にありますように、まずは「早期の被害全容把握」ということで、市町村等と一緒にしながら被害状況の調査を進めているところです。

それから、９ページの（イ）にありますように「被災農家に対する技術指導」ということで、できるだけ収量の減少や品質の低下を防ぎたいため、ＪＡと連携しながら病害虫防除と栽培管理指導を行っているところです。

それから、（ウ）にありますように特に水稻が出穂期を迎えまして、農業用水の確保が一番急がれているところですので、農業用水の確保に全力で取り組んできているところです。

最後に、（エ）にありますように「復旧に向けた支援策の検討状況」ですが、まずは農地、農業用施設の復旧ということで、被害額に応じまして国の災害復旧事業、それから県独自の事業、そして更には農家みずから行ったもの等につきましても支援するなど、その状況に応じてきめ細かな支援策を検討しているところです。

それから、生産面の支援ということで、経営の再開や再生産に向けた面ですが、被災した農業生産用の施設、それから機械、こうしたものの復旧等に支援することはもちろんですが、年内の収入確保、更には翌年の再生産に向けた取組といたしまして、種苗や生産資材等の購入に対する支援等も検討しています。併せて資金対策として無利子の独自の資金の創設も検討しているところです。

私からは以上です。

### **建設部長**

建設部関係の被害の概要等について御説明いたします。

資料の４ページをお開きください。（４）、「公共土木施設災害」の状況ですが、調査につきましてはほぼ終わっておりまして、県と市町村合わせて総額約１３５億円、県分が約８８億円、市町村分が約４７億円となっております。うち河川砂防関係は、芋川などで９８億円、道路が国道１０５号など３５億円の被害を確認しております。道路の通行規制の状況ですが、ピーク時には２７カ所が全面通行止めであったものですが、現在は６カ所となっております。規制が解除されたものが２９カ所で、応急処置が順次進んできている状況です。

飛びまして10ページをごらんください。「公共土木施設被害への対応」についてです。まずは、全面通行止めとなって支障をきたしている道路の応急処置ですが、規制箇所が多かったことから優先順位をつけて対応してきたところです。人命の安全を確保するために孤立集落を解消することや、役場や公共施設、空港、駅といった防災拠点への道路、主要観光地を接続する道路など18カ所について優先して応急復旧工事をしたり、迂回路を造ったりした結果、7月中に通行を確保することができました。河川につきましては、ほとんど災害査定を受けることとしておりますが、秋田市の梵字川など14河川で土のう積みを行うことで被害拡大を防ぐ応急工事も行っています。

今後の災害復旧事業につきましては、9月下旬から10月下旬にかけて災害査定を受けることとしております。復旧工法が決まり次第、順次早急に対策工事を行ってまいります。

以上が建設関係です。

### **座長（議長）**

以上で説明は終了いたしました。

次に、ただいまの説明等に対する質疑を会派ごとに行います。

なお、本日の会議の終了予定時間は午後4時30分をめぐとしておりますので、皆様の御協力をお願いいたします。

初めに、自由民主党会派の質疑を行います。まず、渋谷正敏議員の発言を許します。

### **渋谷議員**

自由民主党会派の渋谷です。この場で知事とやりとりをしたのは6年前、平成23年の9月の総括審査のときだったと思います。瓦れき処理のことでいろいろとやり合っ、お互いテーブルをたたきながらやり合った記憶が今よみがえっているわけですが、今回はお互いに冷静に質問させていただきたい、答えていただきたいと思っていますところ。

知事の冒頭の陳謝、説明、そしてマスコミ等に対する軽率な発言を謝りたい、そして全く弁解の余地もないと、全部責任は自分にあるというようなことを聞き、そしてまた知事と一緒に現地を調査、視察しながら、知事の被災者に対する思いやりの言葉、そして一生懸命大臣に対して要望している姿を見ると、この場において知事を叱責する、厳しく追及するということは私の意には沿わないわけです。しかしながら県民の目は大変厳しいものがあるわけです。「即刻知事に辞めてもらいたい。」というような意見もあれば、いろいろな形で自民党にも、そして私の事務所にもメールがどんどん入ってくる状況です。

その中において、知事は責任は全部自分にあるというようなことになりますと、責任のとり方はどういうものなのかと。私は、大きく分けると2つに1つだろうと思うのです。今回の一連の軽率な行動も含めて、責任をとって知事を辞めるという方法も一つだろうと。しかしながら、私は県民がどんなに冷たい視線で叱責しようとも、針のむしろに座っている状態であろうとも、仕事を通じて挽回し、失地回復したいと、そして県民の信頼を回復したいと、そういう強い姿勢でこれから臨むという責任のとり方もあると思いますが、改めて知事の決意を聞かせていただきたいと思います。

### **知事**

今お話しがありましたとおり、大変多くの非難、批判が寄せられております。私も中身を見ています。また、私自身のホームページにもかなり厳しい意見がたくさん寄せられています。また、まちを歩いても、やはり自分の後ろめたさもあるかもしれませんが、やや

冷たい目線を感じることもあります。

そういう中でありますが、正直言って楽になりたいという気持ちもないわけではありません。ただ、今まで様々、手がけた仕事もあります。重要な案件でこれから結論を出さなければならないものも幾つかあります。また、今までの国との信頼関係、こういうものを総合的に勘案しますと、お許しいただけるかどうかは別にして、これらの仕事について、とにかく自分を無にして、しっかり様々な方面からとにかく努力しながら、そういう仕事について一つ一つ仕上げていくと。また、県民の今の大きな思いである人口減少問題等々について最大限の効果を出すべき、私が先頭に立って全力で仕事をしていくということで——いろいろな面の私の至らぬ点について、何とかそういうことでできれば挽回をさせていただきたいというのは偽らざる心情です。

#### **渋谷議員**

7月22日は土曜日ですから、知事にとってはプライベートな時間として使っても問題ありません。今回の問題は、ゴルフに行ったことが問題ではありません。昼から酒を飲もうと、朝から酒を飲もうと、酒を飲んだこともそんなに——プライベートな時間ですから、勤務時間ではありませんので問題ではありません。今回の2つの大きな問題は、帰るタイミングを失ってしまったと。それから、最初に言った4人が7人、夜だけ酒を飲んだものを「お昼から」というようなことで、マスコミも嘘というようなことを強調したいために、今回のお酒の件も出たと思いますが、しかしながら知事は嘘をついていたという実感があったのか、そしてまたこの時間帯に帰ろうという意識が働かなかったのか、その辺はどのようなのですか。

#### **知事**

まず、一番の私の反省点は状況判断の甘さということで、いずれゴルフ中に幾つかのメールが届いております。これについてその時点でしっかり見て、いったん確認をすれば。いろいろな情報が入りますので。ただメールだけで判断したというところが1つございます。

また、人数が変わった点は、最初の取材に対して、やはり私も少し後ろめたさがありました。ただ、いずれこの点については、こういう事態だからこそ、最初から正確なことを言っておけば良かったということで、非常に後悔しています。

#### **渋谷議員**

4人で行っても7人で行っても、初めから7人で行きましたと、そう言えば問題はないわけです。極端なことを言えば、お酒を飲んでいた場合、朝から飲んでいました、車にいるときから飲んでいましたと。昼から飲んでいても、本当のことを言ったほうが良かったと素直に反省も含めて、今そう思っていますか。

#### **知事**

正にそのとおりです。ただ、大変申し訳ないですが、昼からというのは、隠すとか隠さないとかというよりも、全く記憶がございません。もしかしたら飲んでいないような記憶もあるのです。何を食べたかというのもしかりません。ゴルフをやる人は、お昼に何を食べたかというのとは分からないのです。これ以上言うと弁解になりますが、私は、お昼はもしかしたら飲んでいなかったような気もするのです。飲んだとしても、それは頭の中になかったものですから、飽くまでも宴会という意識から、話したということです。

## 渋谷議員

昼から飲んでもいいのです。ゴルフをやったら喉が渴いたので一杯飲みましたと、それでいいのです。特別それを記憶があるとかないとかと言わないで、飲んだら飲んだ、飲まないなら飲まない、記憶があればはっきり言ったほうがいいし、記憶が本当にないとすれば、反対に心配になります。そういうものを後で変更するということが私はいけないと思っています。

知事は今回のことに対して、責任はある程度感じていると。責任のとり方は、それなりに後でもいいし、今こういう責任をとりたいというのであれば、今こういう責任をとりたいということを書いてもらえばいい。いつの時期にどういう責任のとり方をするというようなことは、今この場で言えますか。

## 知事

いずれ様々な御意見があると思います。様々な御意見を聞いた上で、総合的に判断しながら、私自身も責任のとり方について、そう遠くない時期に当然一定のけじめはしっかりつけなければならないと思っています。

## 渋谷議員

けじめのつけ方は、いろいろあるでしょうが、県民は大変関心を持っているし、注目していますから、これは今までの慣例に従って、このぐらいで収めようなんていうことは決してしてもらいたくないと。「こんなにも厳しく自分を律するのか。」というようなことをやはり我々に示していただきたいと希望します。

そして、またもう一つは、多分、知事は減給処分になるかと思いますが、それよりもこの際知事の最も好きなお酒とゴルフのうち、この3年間は1つはやめると。自分を律するために「ゴルフはやめる。」、または「酒はやめる。」とここで言えませんか。私は、お酒は知事はやめられないということは分かっていますから、どうですか、ゴルフ。ゴルフでこういうことになったのだから、ゴルフは3年間ぐらいやめると、封印すると、そのぐらい自分を律するというので、県民にそういうことも含めて言ったほうがいいと思いますが、どうですか。

## 知事

いろいろな場合がございます。必要な場合もございます。ただ、いずれ今回の件については全て反省の要因になりますので、そういうものを全て考えた上で、様々な面で自分の身の律し方、あるいは処分の仕方については総合的に考えたいと思います。

## 渋谷議員

危機管理監にお伺いします。メールで知事に状況を発信したとのことですが、何回、何通発信したのですか。

## 総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長

当日の一連の大雨の状況につきましては、22日中に8回、あと23日の早朝に1回、その後知事からの連絡があったということで、それまで計9回メールを送信しております。

## 渋谷議員

メールというのは、発信したのは分かりますが、見たか見ないかというのはラインと違って分かりません。それを22日中に8通送信したとのことですが、その間に知事から何

か連絡ありましたか。

**総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

知事から特に返信なり連絡というものはございませんでした。私は、メールを送って、本来であればしっかり確認されたかどうかの確認をすべきだったと思いますが、22日、23日のメール送信につきましては、特段受信の確認はしないでしまったということになります。

**渋谷議員**

危機管理監、そこが問題なのです。例えば、あなたの家族に交通事故が起きた場合、妻に連絡、メールを打ちましたと。それで、自分の子供は救急車で運ばれているときにメールだけで終わりますか。メールを見たか見ないか分からない状態だったら、必ず緊急の場合は肉声で電話をかけるでしょう。それをしないということは、あなたは危機管理ができていないということです。どう思いますか。

**総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

当日、これだけ大きな被害が進行している中で、きっちり危機感を伝えることが出来なかったという意味で、そういうメールが連絡手段だったことや実際直接電話をしなかったことも含めて大変大きな責任を感じております。

**渋谷議員**

秋田地方気象台長の和田さんという人がいます。その方は、各首長と全部ラインでつながっているのです。そのために今回の緊急情報等は、首長に電話、ラインで行っています。それで、大仙市長は後援会の総会、懇親会もあったのですが、ラインで緊急情報が入ったので、「みんなとお酒を飲みたいけれども、飲めない。」と言って途中から抜けて市役所に行きました。仙北市もそうです。各市町村長にはみんなラインで情報が入っていました。気象台長の緊急情報が首長に直接入るようになっていきます。気象台長から危機管理監のところにはラインはつながっていますか。それとも知事のほうにもつながっていますか。

**総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

気象台長と私の間でのホットラインはありませんでした。気象台長からは、そうした市町村長に対して直接助言を行ったその内容と状況について、総合防災課にまとめて報告をもらっていますが、直接のホットラインはありませんでした。

**渋谷議員**

そこなのです。やはり今回、大きな人身事故にならなかったのは、市町村長に気象台長から直接ホットラインがあったことが大きいのです。気象台長が、岩手県で大変な人身事故が起きたということを教訓にし、今年秋田に来てホットラインを結んだからです。そのことによって被害を免れたという実態があるわけです。ですから、危機管理監や知事も気象台長とホットラインを結ぶことをやってはどうですか。

**総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

今回のことを受けまして、正にそうしたホットラインは非常に重要だと感じております。そのため、既に気象台長にはお願いをして、知事との間でホットラインを設けるということで進めているところです。

**渋谷議員**

水澤部長と草薨部長に伺います。議員の中であなた方と一番長いつき合いだと私は思っ

ています。というのは、私は今年の4月まで産業観光委員会に4年間いましたから。だから、私はあなた方の能力は十分知っているつもりです。ですから、考えてみればあなた方も相当のペナルティー、処分があるという気ではありますが、実は私は気の毒だなど思っている一人なのです。というのは、県庁の職員に限らず組織の中で自分の上司から誘われて断る人はほとんどいません。そこは、民間の会社だって、ゴルフをやれることが分かっている、社長から誘われたら大概行きます。一杯飲もうと言われてたら行きます。そのとき誘うほうは条件があるのです。やはり仕事出来るほうがかわいいのです。気の利く人はかわいいのです。いろいろな意味で、その場の雰囲気を取り持ってくれる人は連れていきやすい。ですから、あなた方は人間的にも大変知事からはかわいがられる性格だというのはよく分かります。あなた方は今現職の中では知事の側近中の側近だと私は思っています。そのとき、知事に、「ちょっと危険ではありませんか。」、「これは帰ったほうがいいのではないですか。」と言うことを、考えもしなかったですか。それともただ言えなかったのか、どちらですか。1人ずつ教えてください。

#### **観光文化スポーツ部長**

今回のことにつきましては、1つには気象災害を適時的確に把握できる携帯電話の設定をしていなかったということもあり、今思うと、そういう意味では秋田県内の気象状況に対する認識が本当に甘かったと思っています。その上で、気象状況を知事が見ていて「秋田のほうはなかなか大変になってきたようだ。」と、「これはちょっとあしたは出来ないかもしれないな。」という話をしたときに、その時点で今議員がおっしゃるような立場であったからこそ、そういうことを言えなかったことについては大変後悔もしておりますし、反省もしております。ただ、それは私がそういう意味で認識が甘かったということだと考えております。

#### **産業労働部長**

気象情報に関して、朝の時点でも十分な確認をしておりませんでした。また、十分な気象情報が入るような携帯電話の設定もなされていないという中で、本当に後悔しているわけですが、十分な気象情報を把握できなかったのが知事に進言することができなかったということです。決して進言すべき状況にありながら進言できないということはないと思っています。状況把握ができなかったことを大変反省しておりますが、本当にそのことが、今回の進言に至らなかった理由です。

#### **渋谷議員**

残念なのは、本当に一言「知事帰りませんか。」、「これはちょっと危険ですよ。」というようなことを言ってほしかったと、私は今痛切に感じています。そのときに、知事から「いや、あした帰ればいい。」と言われてたら、あなた方が「では私1人だけ帰ります。」とは組織上、到底できるものではないですから、それは残るでしょう。それでもそれをやはり進言してほしかったとつくづく私は思っています。

そして、あなた方2人は、私は十二分に本当に仕事出来る男、やれる男だと思っていました。しかしながらあなた方の場合はもう部長ですから、部長というと正に知事を支える側ですから、やはりこれからは気がついたことはどんどん進言すると。そして、我々議員もあなた方の能力というのは評価しているわけです。是非そのことで、「友達だから偉くなったのだ、部長になったのだ。」などと陰口をたたかれたいためにも、これから定年

まで3年近くあるわけですから、身を粉にして本当に県民のために頑張っていたきたいと、それをお願いして私は終わります。

#### **座長（議長）**

渋谷正敏議員の質疑は終了いたしました。

次に、加藤鉦一議員の発言を許します。

#### **加藤（鉦）議員**

今回知事から、先ほど「これから残りの任期、しっかり県勢発展のために努力をしたい。」というお話がありました。しかし、県民の皆さんからはかなり厳しい御意見があり、私も数件厳しい御意見を頂きました。それだけに知事がその県民の思いというものをいま一度しっかりかみしめて頑張っていたいただかなければいけないと思います。

私は今回のこの災害を通して改めて感じたのですが、今回人的被害がゼロというのは、私は本当に驚くべきことではなかったかと思うのです。このくらいの被害があつて人的被害が全くなかった。これは、先ほど言ったように秋田地方気象台の和田台長さんがホットラインを結んでおり、午前9時ころから連絡を始めているのですよね。先ほど危機管理監が言ったように午前9時14分に土砂災害警戒情報が出た時点で、自動的に災害連絡室を立ち上げています。その後本来であれば、これを災害警戒部にもっと早く上げて、上げるためには知事の判断を仰がなければいけないのです。まず、これをなぜやらなかったのかを伺います。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

御指摘のとおり、土砂災害警戒情報が発令されると災害連絡室というのは自動設置ということで、それに併せて立ち上げたところであります。その1つ上の警戒体制としては災害警戒部というのがあります。それは総合防災課長が必要と認める場合について設置をするというものです。更に、その上の災害対策部、最上位の災害対策本部ということで、今回結果的に、やはりこれだけの被害の出た災害でありましたので、もちろん警戒体制というものを当然引き上げるべきであったと、今思えばその点について適切な状況判断ができなかったことを大変後悔しております。そういう意味では、その状況を把握しながら判断はしたところでありますが、そういう状況判断が甘かった、危機感が足りなかったということだと深く反省しているところであります。

#### **加藤（鉦）議員**

反省しているということですが、災害警戒部に上げるためには気象台発表の判断でできるのです。この土砂災害警戒情報は22日に11回出ているではないですか。そして、この土砂災害警戒情報は、気象台と県が出すのでしょうか。では、気象台長は非常に危機感を持っていたのに、県はそれを出しておいてなぜ危機感を持たなかったのですか。そこが私は考えても分からないのです。なぜそうなったのか。土曜日だからそうなったのか。私は、以前、総務企画委員会に在籍していましたが、この新しい立派なシステムに変える際、かなりお金を掛けたではないですか。こういう立派なシステムを作っているのに、危機意識がないとこうなるのです。実は私は非常に残念だと思っているのです。なぜ横の連携が出来なかったのですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

確かに土砂災害警戒情報というのは、県と気象台で合同で発表しておりますが、そうい

った意味での情報は当然我々も認識はしていたところであります。繰り返しになりますが、それ以外にいろいろな情報を収集する中で、そうした状況判断が適切に出来なかったということです。

### **加藤（鉦）議員**

まず分かりました。反省しているわけですから、これからはそういうことがないと私も信じております。

それから、当日は土曜日ですが、知事は公人なのです。やはりこの意識が少し薄れていたのではないかと私は改めて思います。

今後の対策についてですが、知事の携帯電話に直接電話するとか、知事はそういう公用携帯電話を持つなど、常にいざというときのための管理も含めて、検討すべきではないかと思えます。確認の仕方ですが、ただ電話をかけるということも確かに大事ですし、ましてや警戒部に一段階上げるとするのは、知事の判断を仰がなければ出来なかったわけでしょう。完全に知事に電話しなければいけなかったのです。それがメールだけで済ませてしまったという、この内部の危機管理体制の欠如、これは非常に問題です。大いに反省をさせていただいて、こういうことが絶対にないようにしていただかなければいけないと思えます。

それから次に、今回の一連の件については、マスコミ、新聞などにいろいろ出ておりますが、知事は「今回のこのことは非常に深い戒めとして行動規範を含め、全体の雰囲気、仕事の仕方に対する姿勢を改めなければいけない。」というふうなこともお話しされております。私は、これはどうやって信頼を取り戻すのか、あるいはこれから知事が一生懸命県勢のために頑張ろうとすれば、県職員も含め、もう一度やはり改めるところは改めて——「姿勢を改める点がいっぱいある。」ということを行っているわけですが——知事はどういうことを職員に対しても県民に対しても改めなければいけないと思っているのでしょうか。

### **知事**

これは私の反省点でもございます。

もう一つは、私が秋田市長のときとちょっと比べています。これも最終的には私に責任がありますが、どちらかといえば非常に細かいところまで口を出すという習性が私にはあります。そういう中で部長方も——これは私が厳しく突っぱねればいいのですが、自分で自分を忙しくしているということなので、逆に逆効果な面もありますが、全て私のところで決まると。非常に細かいこともくると。ただ、最終責任はトップである私がとるので、その段階でやはり部長の判断を最大限、部長にいろいろな面で責任を持ってもらい、しっかりその現場でやるようにという、そういう判断や仕事の仕方のほうがいいのかなど。

これは、ちょっと私は言いにくいのですが、例えば私が、これも非常にこの場で言うともたまたま弁解に聞こえますが、秋田市は……

【「言わないほうがいい。」と呼ぶ者あり】

### **知事**

私がいた当時、秋田市では、ほとんど部長が物事を決めていました。ですから、そういう意味からすると、私が余りにもいろいろな面に刺さる（「口を出す」の意）という。ですから、部下を信頼して責任を私がとるといような状況を作っていないと、部長が私

に物を言いにくくなるということがあるのではないかと思います。そういうことで、できるだけ部長の判断を主体にして、最終的な責任というのは私ですが、そういうような職場の雰囲気を作っていかなければならないと思っています。

#### **加藤（鉦）議員**

私もそのように思います。こういう県組織で、知事が大きいものを全て決裁というものを、やはり政策でも大いに部長を中心にある程度責任を持たせるという体制は私は必要なことなのではないかと思います。この機会にそういうことも含めて、まず県庁職員が更に頑張るという気持ちになるように知事も頑張っていたいただきたいと思います。

私の質問を終わります。

#### **座長（議長）**

加藤鉦一議員の質疑は終了いたしました。

次に、佐藤雄孝議員の発言を許します。

#### **佐藤（雄）議員**

災害の復興、復旧等に関する今後の取組について伺いますが、まず初めに2人の部長にお聞きします。秋田県職員は3,400人ぐらいおります。その中で、限られた十数人の部長の中の2人です。プライベートでも知事に同行して、危機管理——先ほどおわびをしておりましたが、危機管理上の甘さがありました。我々議員に対して立って頭を下げて謝るという姿勢が欠けているのではないですか。どうですか。

#### **観光文化スポーツ部長**

このたびのことにつきましては、私個人としては本当に弁解の余地のない対応だったと思っております。県民の皆様には秋田県庁を不名誉な形で有名にしてしまう、議会の皆様にも御迷惑をかける、非常に私自身反省しておりますし、この上は先ほど知事が申し上げておりましたとおり、県勢のために私の職責をしっかりと果たしていくということで頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。本当に申し訳ありませんでした。

#### **産業労働部長**

議員の皆様を初め、多くの皆様方に大変御迷惑をおかけしましたこと、深く後悔して反省しております。このたびのことを本当に皆様方に心からおわび申し上げたいと思います。大変申し訳ございませんでした。

#### **佐藤（雄）議員**

危機管理監に伺います。先ほど加藤議員からもお話がありましたが、資料では、災害が発生して7月22日に災害連絡室を設置しました。そして、7月28日の16時に災害対策本部へ格上げをしましたが、この間は1週間あるのです。この1週間は刻一刻と被害状況が入ったと思います。この間に被災された住民——床上浸水、床下浸水、そしてこの農業県である秋田県の農業被害もどんどん発生しました。この1週間はそういう状況の中で、なぜ災害対策本部をいち早く設置し、被災された住民に対してやる気を示さなかったのですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

御指摘のとおり、23日に庁内の連絡会議ということで対応して、それ以降何回か庁内連絡会議で対応してしまったということで、今となってみれば、そういった対応というの

は非常に誤りだったと思っています。災害対策本部を早期に、23日中などに立ち上げるべきであったと、深く反省しているところです。

そういった体制を作るということは、もちろんいろいろな対応をしていく、それに応じた体制を作るということもありますが、内外にそういった県の対応姿勢を示すという意味合いもあるので、そういう意味では正に対応が遅かったと反省をしているところです。

#### **佐藤（雄）議員**

それでは、災害の復旧、復興の今後の取組を伺います。

まず初めに、農林水産部ですが、今回約90億円ぐらいの被害が想定されるということで、多種多様な被害があるわけです。いち早く復旧、復興に取り組みながら、安全、安心を確保して、なおかつ生産者の生産意欲の低下を防いでいくことが第一の使命ではないかと思っております。この農作物被害の対応ですが、これは収量、品質等々で所得の減収等も見込まれます。そうしたところの指導、そして被災農家に対してどのような対策を講じていくのですか。特に技術が未熟な経営基盤の弱い新規就農者又は移住就農者へのフォローアップを本当に真剣にやっていかなければならないと思いますが、その点はどのように考えていますか。

#### **農林水産部長**

まず我々が被災直後から一番危惧したのは、これだけの災害、当初は十何億円から始まりましたが、最終的には過去最大級ぐらいになるのではないかという危惧を持っていました。そこで一番心配したのは、農家の方々のやる気がそがれてしまうということで、まだ被害状況も全部分からない、対策も具体的に検討していない段階でしたが、当部のほうから地域振興局を通じて、「まず被害状況を調査しながら農家を励ましてくれ。」と、「必ず応援するから。」というようなことを伝えたところです。特に大きな法人は、もちろんダメージは大きいわけですが、それなりに人もおりますし、こうした経験を何回か積んでいるわけです。今議員がおっしゃいましたように新規の就農者ですとか、秋田に移住し、就農された方もいらっしゃいます。大体被災された方は10名おりますが、この方々に——特に知事からの指示がありましたし——まずは地域振興局と農協、市町村などと一緒になってチームを組んで巡回してくれと。技術的にもなかなか乏しい部分もありますので、そういったところ——例えば排水対策一つをとっても慣れない部分ですし、これからどういう形で防除をすればいいかということも分かりませんので、マンツーマンでしっかりときめ細かに指導してくれということを示しているところです。現にそうした形で何回か足を運んで励ましつつ応援しているというところです。

こうした農家がこれからまた立ち上がって頑張ってもらおうというところは、まずは農地や農業用施設の復旧については、おかげさまで激甚災害の指定も受けましたので、これをフルに活用しまして、その基盤をしっかり復旧させると。その上で、今年の現金収入のところと間に合うのであれば、秋冬野菜の種をまくですとか、そういうことも考えられますし、また来年の再生産に向けていろいろな形で、種子や肥料などの生産資材がかかり増しになりますし、収入のない中でそういった対応をしなければいけないということで、今回の被災の現状をきちんと踏まえて、きめ細かに支援策を講じてまいりたいと思っています。

#### **佐藤（雄）議員**

今話されたことを今度は現場の農家の方々にいち早くメッセージとして伝えていく、こ

れが一番大切なのです。今、現場の農家の方々は、精神的にダメージを受けているので、そういうメッセージを、地域振興局、市町村という流れになると思いますが、いち早く伝えていく必要があるのではないかと考えておりますが、どうでしょうか。

#### **農林水産部長**

先ほど申し上げましたように、もう既に被災直後から「県はしっかりと応援するから。」ということをおの判断で伝えさせてもらっています。その後の被災状況の調査、それから国からの視察団の来秋というところで、知事も現場に入ってもらい、最後は一人一人の被災農家に対して声をかけて、「県もしっかりサポートするから、まず諦めないで頑張れ。」ということを行った先々の全部の農家に多分話してくれていると思っています。これから様々な打ち合わせの会議や事業説明会もありますので、部としても調査だけではなく、そうした際にあらゆる機会を通じて、「県もサポートするよ。」ということをお被災農家に伝え、励ましながら復興対策に取り組んでまいりたいと思っています。

#### **佐藤（雄）議員**

被災された作物で特に野菜類、花卉類が共済になかなか加入していないという現状の中で、そういう方々に対する支援策等々はありますか。

#### **農林水産部長**

水稲、大豆が一番大きい被害を受けましたが、この2つの作物はそれぞれ農作物共済、それから畑作物共済ということで共済に入っておりますので、一定程度の補填が受けられます。ただ、野菜関係、花卉関係は何もありません。価格の乱高下に対しましては、国、県の支援がありますが、こうした収穫がないものに対してはどうにもならないということで、県とすれば種子や肥料などの生産資材を再生産に向けて支援するわけですが、共済のないものについては、ほかのあるものに比べて一段補助率を上げるなど、そういったことは当然やっていかなければいけないと思っています。

それと、もう一つは、今回つくづく感じたのですが、共済のある作物はいいけれども、野菜関係はありません。どうしても減収分をしっかり補填する制度が今の制度ではないわけですね。今国で平成31年度の導入を予定している収入保険制度がこうしたものに対してタイムリーに対応できる制度ではないかと考えておまして、そういったところの周知や、この後の準備等にも引き続き万全を期していきたいと思っています。

#### **佐藤（雄）議員**

被災者のダメージは大きいので、スピード感を持って一日も早く元気をつけるような対応をやっていただきたいと思っています。

先ほどの報告で、災害復旧事業は9月下旬から10月下旬にかけて災害査定をするということで、財務省東北財務局の立会官が来て、いろいろな査定をして歩くわけですが、実際に県民の安全、安心の確保のためにも、工事に早く着手するという事だと思っています。専門である建設部長に聞きますが、どのようなスピード感を持ってこの災害復旧、復興に取り組むのかお話をいただきたいと思っています。

#### **建設部長**

当部は警報が出た場合にすぐ職場へ出て早急な情報収集に努めてきておりました。そうしましたところ、先ほど御説明しましたように二十数カ所という非常に多くのところで全面通行止めになり、これらをまず一刻も早く通すようにしなければいけないということで、

応急復旧に取り組んできました。その応急復旧の際は、道路管理業務委託を結んでいる業者に迅速に走って行ってもらい、瓦れきを取り除く、土のうを積む、土砂を撤去するなど、やってもらっています。しかしながら、今回箇所が多かったということがありまして、それではなかなかスピード感が出ないということで、災害協定を関係機関と結んでいます。建設業協会や県土整備コンサルタンツ協会など、そちらのほうにも動いてもらいました。そうした結果、応急処置としては早くできたと思います。

ただ、問題はこの後の本復旧です。この本復旧は、どうしても災害査定を経て行わなければいけないものですから、それについては知事からも国に一刻も早い災害査定をお願いしたいということを申し添えていただいております。早く災害査定を行って、できるだけ早く解決していきたいと思っています。

#### **佐藤（雄）議員**

復旧、復興については、秋田県職員全員が一丸となって県民の不安を取り除くような対応をしていただきたいということをお願いして終わります。

#### **座長（議長）**

佐藤雄孝議員の質疑は終了いたしました。

次に、工藤嘉範議員の発言を許します。

#### **工藤議員**

よろしく申し上げます。知事にお伺いします。

報道関係から知り得た情報で、今回同行された2人の部長を処分されるというコメントをされていたと私は記憶をしていますが、その点についてはいかがですか。

#### **知事**

当然これは義務ではなかったかもしれませんが——メールも私に進言する、しないは別にして——そういう一般的な状況の中で、メールの気象情報は全く入っていないと。産業労働、観光も気象と非常に関係がありますので、災害のみならず、こういうことは部長としても非常に抜けているということと、もう一つは私と一緒にいろいろな面で情報について共有しなかったということも含めて、これは応分のといいますか、しっかり懲戒処分に至るという状況になろうと思います。

#### **工藤議員**

総務部長にお伺いします。

今回のこの一連の両部長の休日中の行動や災害連絡室が出来た中で会議に駆けつけなかった件について、私のところや自民党控室に県内外の方から何件かすごく怒りの電話をいただいて、その中には公務員法に違反しているのではないかという話もありました。そういった意味であらゆる法律や県庁内の職務規程に抵触するようなことがあるわけですか。

#### **総務部長**

今知事から申し上げましたが、本来幹部職員として得ておくべき気象情報、あるいは災害情報を簡単に受信できる状態にはしていなかったこと、それを持っていればできたであろう幹部職員としての県知事への進言、更にはそういった一連の行為等で県民の信頼を大きく損ねたということが該当するのではないかと考えております。

#### **工藤議員**

そういうことに抵触するという意味で、知事は今回処分という重いことを考えられてい

るのですが、先ほどの3人のやりとりで職務を全うしながら県民の信頼を回復するように努めるという力強い決意を表明されました。知事も自分の責任のとり方もあると言いましたが、今回同行した2人を処分するという事を考えると、相当自分に対する重い処分を具体的に考えているのですか。

#### **知事**

私の場合は、職員と違って配置換えなどはありません。あり得るとすれば、職を辞するか、もう一つは議会の議決を得て減給処分となります。今は県議会の質疑の最中ですので、この議会の状況を見ながら最終的に判断をしなければなりません。ただ、いずれ職にとどまることをお許し願えるとすれば、みずからの減給処分については極めて痛みを伴うくらいのことをすべき責任があると思います。

#### **工藤議員**

以前、農林水産部の職員の若い技師が処分された際、総括審査で議論したことがあります。私は、「そんなことしなくてもいいのではないか。」と知事に話しました。その前の日、同じ質問を行ったみらい会派の渡部議員に対して知事は「行政職員、県庁職員はプロなのだから間違っはいけない。」とおっしゃいました。私は、次の日、「そこまで言わなくてもいいのではないか。」という話もしたのですが、「行政のプロは間違っはいけない。」というふうに強く言ったのです。その思いは変わっていませんか。

#### **知事**

基本的にはその思いは変わっていません。ただ、自分のしでかしたことについては、職員のそれ以上の、それよりも倍旧に値するぐらいの処分でない、職員が納得しないと思います。

#### **工藤議員**

先ほど佐藤議員も話しましたが、私の手元のインターネット情報で知事部局職員は3,602名います。きょうお座りの部長は9名いらっしゃるわけですが、この9名というのはトップ中のトップ、プロ中のプロ、たくみの技と言ってもいいぐらいのプロだと私は理解しています。草薨部長と水澤部長にお伺いしますが、先ほど我々県議会に陳謝するという話であります、私は議員に対する陳謝というよりも——こういう問題が起きたときに2人は部に帰り、各課を回ったり、あるいは課長を通してお話ということで、自分の部下、部員に陳謝をしたのでしょうか。

#### **観光文化スポーツ部長**

私は、大雨の翌日から出張しておりました。帰りましたのがその翌週の金曜日でした。帰りましたときに部内の部課長会を緊急に招集しまして、このたびこういうような形で観光文化スポーツ部というものを不名誉な形で取り上げられてしまう形にしてしまったことについて、まずはおわびをしました。その上で、これからしっかり仕事をして県民の信頼を回復したいということで、そういったことに御協力をいただきたいということも併せてお願いをいたしました。

また、翌週でありましたが、実は知事から朝の会の中で各部局長に対して、「県庁の職員の方々も非常にこういった問題で、いろいろな方々からいろいろなことを言われているといったことがあり大変御迷惑をかけたという思いがある。」ということで、それを部局に戻ってから知事の言葉を伝えてほしいということで言われました。そのときにもう一度、

部課長会を招集いたしましたして、改めて知事からもこういう話があったので、申し訳なかったという話をお伝えしています。

#### **産業労働部長**

一連の問題が明らかになった時点で、早朝に緊急の部課長会を招集し、集まってもらいました。その中で、当然自分の行動の至らなかったことについて、部課長を通じて職員の皆さんにおわび申し上げたいということをお伝えしております。

更に、非常に職員の皆さんには申し訳ないですが、自分の不始末がありながら、本当に申し訳ないけれども、信頼回復に向けて是非職務に当たってほしいということをお願いしています。

#### **工藤議員**

いずれ私もサラリーマンとして使われる身分もあったわけですが、やはり管理職は、これからチームとしてやっていくには県民と、それから同じ県庁の組織の部下にもしっかりともう少し声かけをしたほうが良いと思っています。

両副知事にお伺いしますが、竿燈まつりの初日の3日の午前中のクルーズ列車に私も乗りました。堀井副知事もいらっしゃいました。夜、今度は中島副知事が竿燈のはんてんを着ていらっしゃいました。別に個人攻撃をしたいわけではないですが、私は朝のクルーズ列車と、それから夜の竿燈まつりのときに草薨部長がどちらにもいらっしゃったことに若干違和感を感じたのです。仕事ですからいいのですが、こういう危機管理のことで非常に問題になっているときに、違和感を感じませんでしたか。

#### **副知事（堀井）**

草薨部長は海外出張から帰ってきてから、職員や県民に向けて謝罪をして、そしてまたしかる後に目前にある職務はしっかりと遂行してもらいたいと思っていたところでありますので、今回クルーズ船の列車に同乗したということは必要な対応だったと思っています。

#### **副知事（中島）**

私も実は竿燈まつりに出る前に草薨部長からは、「一瞬自分は迷いました。」という話を聞きました。今回水害の後、観光客の減少も見込まれる中で、私自身も考えたのですが、竿燈まつりを盛り上げるということも大事な職務であるという前提、観光客を盛り上げるというのは十分仕事として大事だということで一緒に出た次第であります。

#### **工藤議員**

今のお話を伺いながら、先ほど知事がみずから自分は何でもやってしまうのだと、県庁組織というのは部長が決めない——決めないと言ったかどうか、少し微妙ですが——自分が何でもやってしまうという中で、今のお話を伺うと、両副知事の役割というのは非常に大きいと。今のような判断もされながら、部長が言えないのであれば、もっと副知事がそれに代わって意見を述べる、お話をするという場面がいっぱいあってもいいのかなと思いますが、どうですか。

#### **副知事（堀井）**

今回の危機管理体制を含めて、様々な課題や反省すべき点があったということは、組織全体をある意味で束ね、そしてまた知事を支える副知事としての責務がある中で、本当に大きな責任を私自身痛感しているところであります。先ほど知事からも申し上げましたが、こうしたことが二度と発生しないような組織の在り方ということについて、一生懸命改革

に努めてまいりたいと思っています。

### **副知事（中島）**

副知事というのは、知事に何かあれば代理を務めなければいけない立場でもあり、災害が起きたとき私自身は自宅で待機をしておりましたが、後々私自身がもっと積極的に声をかけるとか、もう少し考えるべきだったと思ったのは事実であります。堀井副知事も申し上げましたが、組織を束ねてみれば私ども副知事も全く同じ立場だと思っておりますので、今後職務に精励して、こういうことがないように組織を盛り上げていきたいと思っています。

### **工藤議員**

いろいろな場面の報道がなされていましたが、危機管理監に少しお伺いします。先ほど質問があり、知事が不在で、メールを送られたという中で、3人が若干ニアミスでない時間帯もあったと聞いています。知事に電話をなぜかけなかったのですか。副知事に相談をしながら——電話、直接、やはり普通に考えても——副知事に判断を仰がなかったのですか。そういう場面はなかったのですか。

### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

今回の災害の発生におきまして、様々その状況を随時知事にはメールという形で報告はしました。当日堀井副知事につきましては、海外出張から帰ってこられるということで、これまでも様々な危機管理情報につきましては、基本的には知事に伝えたものと同様の内容について堀井副知事にも伝えていたところであります。ただ、その際にどういう手段を使って知事に報告をしているか、あるいは電話連絡をしたほうがいいかなど、そういった相談を副知事にはしなかったということでもあります。

### **工藤議員**

いずれ今の危機管理監だけではなくて、経験者もいらっしゃるし、また、替わったばかりという事情もあるので、少しいろいろなそういうところも重なった点もあるのかと思い、多少同情するところは私もあります。

最後に、知事にお伺いしますが、今の両部長を含めて、ここに座っていらっしゃる部長は行政のプロ中のプロだと私も思います。知事も市長をやられて、知事に3期目の当選をされて、行政の首長のプロ中のプロだと思っています。自分自身をどう思いますか。

### **知事**

経験からすると、そういう状況だと思います。ただ、逆にそれが今回災いしたと思います。

### **工藤議員**

いずれ知事が最初の知事選に出るときに、今は亡くなりました渡邊前秋田商工会議所会頭が激励の挨拶のときに、佐竹さんはしゃべり過ぎるというふうな指摘があって、それ以来知事は少しむっとしたことをよく言われました。きょうはみずから「細かいところに口を出す、そういう習性ではないか」とおっしゃいました。ふだんは我々に対して、「私は人の話を聞く。」という話もよくするわけですから、やはりその辺の判断をもう少し変えながら、本当に心の底から我々の話、職員の話聞いて部長が決めていけるような県庁組織になってもらいたいと思います。そのことをお願いして終わります。

### **座長（議長）**

以上で自由民主党会派の質疑は終了いたしました。

ここで暫時休憩をいたします。再開は午後 3 時 10 分とします。

午後 2 時 55 分 休 憩

午後 3 時 10 分 再 開

### **座長（議長）**

協議会を再開いたします。

休憩前に引き続き質疑を行います。

みらい会派の質疑を行います。渡部英治議員の発言を許します。

### **渡部議員**

本来であれば、この場合は、佐竹知事と政策論争をすべき場ですが、こういった形で質疑をしなければいけないという状況を全く不本意に感じます。正直なところ情けない気持ちもあります。大雨で被害を受けております地元の皆さん、そして県民の怒りと、ある意味、知事の不誠実な対応に、きっちりとそういった厳しい声を受けとめながら質問に入りたいと思います。

なお、本日の詳しい説明を受けるまで、ほとんどマスコミ報道でしか知る余地がなかったと、こういうこともひとつ勘案しながら受けとめてもらいたいと思っています。

まず、佐竹知事、県のトップリーダーである知事の危機管理に対する認識をお答え願います。

### **知事**

当然危機管理意識というものは常に持っているつもりですが、結果、今回こういう状況を生じさせたということについては、幾ら自分でそう思っていると言っても、実態的にそうならない状況を作ったということは、正にそういうところが欠如していたということになろうと思います。

### **渡部議員**

私は、やはり何事も初動態勢が大事だと思っています。一連の知事の行動は果たしてその初動態勢に合致していたのか。ある意味では命取りにもなるし、その判断ミスが大きな災害に結びつくと。こういったことは、かつての被災地である首長方も指摘しているわけです。そういった意味で、不在であったということに対する認識をもう一度お願いします。

### **知事**

私も幾つかのポイントにおいて判断をする時期があったと思います。一番望ましいのは、22日の朝の行く前にもう少し気象情報等、詳しい情報を掌握していれば、あるいはもし出かけたとしてもすぐに帰れるような状況を作ったり、あるいは出かけるのを中止したということもあったかと思っています。

また、途中の段階でメールが今大体確認しますと120通ぐらい入っております。22日から23日の朝までの約1日で、百二十数通、これをしっかりその時点において点検をしていれば、何回か判断するチャンスがあったということで、そういう意味で幾らメールがあったとしても私自身、多くのメールがあるということの一つ一つ見る事が出来ない

場合でも、自分から電話をしていけばもっと状況が分かり、緊迫感があるとすれば途中で帰るといった選択もあったと思います。そういうことで、最終的には23日の朝に私から電話するのではなく、それまでの段階で電話をしておくべきだったと思っています。

#### **渡部議員**

私は、今回の一連の関係で、危機意識、管理対応の甘さと低さを感じました。県のトップは県民の生命と財産を預かっているわけです。そういった意味からすると、今回の一連の行動には、やはり憤りを感じている県民は多いと思います。

知事、あえて聞きます。誰のための県政かと問われたときにどう答えますか。

#### **知事**

もちろん県政の対象は県民であります。県民の幸せ、あるいは生命、財産を守るという、これが基本であると思います。

#### **渡部議員**

冒頭申し上げたように、今非常に複雑な気持ちでいるわけですが、どうしても最初の知事の記者会見で事実関係を全て話さなかった、これが私からすると非常に残念でならないのです。いわゆる虚偽説明という最悪のパターンに至ったわけなのですが、この点について知事は今どのように思っていますか。

#### **知事**

自分自身でも後悔し切れないほど後悔していますし、知事という立場でこういう状況を作るということは全く弁解の余地がないという状況です。正に先ほどお話ししたとおり非常に恥じ入っているという状況です。

#### **渡部議員**

2人の部長に伺います。まず、草薙部長に確認します。知事に戻ろうと進言しなかった理由として、「知事の対応に納得したから」だとマスコミは報道されていましたが、どのように納得したのですか。

#### **観光文化スポーツ部長**

納得したという、そういうふうに書かれております。午後4時半ぐらいからでしたか、夕食ということで飲酒をいたしまして、これから戻るということ、運転する人がいなくなってしまったということもあり、あした早く起きて行かなければならないという話、知事からもありましたので、あした早く起きて行くというのが現実的だと思ったということです。

#### **渡部議員**

水澤部長に確認します。7月26日の記者取材に対して、ゴルフに同行したことを認めて、あえて知事に対して事実を明らかにすべきだと、そう進言したということでしたが、それについて間違いありませんか。

#### **産業労働部長**

26日の午前中ですが、一部マスコミからの取材要請を受け、そのことも含めお話ししたところです。

#### **渡部議員**

知事に確認します。7月26日にいわゆる謝罪会見をしていますが、非難は覚悟しているというコメントがありました。しかも、これも報道で知ったことなのですが、秋田に戻

る際の車の中での部長たちとの会話のやりとり、その中で「大きな非難を受けるのは、その時点で覚悟していた。」という部分がありました。私はこれを見て、そういう覚悟をしていたのであれば、1回目に全てを話すべきではないかと思いました。何か俗に言うやましいことがあるなどと受けとめられる可能性もあるわけです。その点は、どう思っていますか。

#### **知事**

最初の取材が夜の電話取材であったのです。電話取材ということで、その段階で——済みません、夜の電話取材の前に公舎にある記者がおいでになって、夜ですから、インターホン越しに取材ということで——インターホンが20秒ぐらいで一回切れて、またスイッチを押しますとまた復元しますが——そのときにやはり後ろめたさもあったと思います。そのときは非常に切れ切れな取材でして、その段階でしっかり答えるというのは、その概略でも内容を別にしても、人数だけでもしっかりお話ししておけばこういうことにはならなかったと思います。ですから、その点について、取材対応について全く私が誠実でなかったということになるかと思います。

#### **渡部議員**

知事、今後ろめたさはなかったわけではないということでしたが、当初部長をかばう気持ちがあったと私は受けとめたのですが、今の部分はそういう気持ちとどう結びつくのですか。

#### **知事**

今になってみれば、全体の会議を自分で朝に招集しておいて遅れるという、一番の失態がありますので、それと一緒に部長の問題もありますので、そういうことが複合して言葉をとどませたのかという。ただ、そういうことで、その時点における取材対応について非常に反省をしているところです。

#### **渡部議員**

事実関係を明確にするという観点からあえて伺いますが、一緒に同行した県庁OBの方々の名前は公表することはできますか。

#### **知事**

記者会見で公表しています。

#### **渡部議員**

OBの方ですか。

#### **知事**

はい。

#### **渡部議員**

そうすれば、このOBの方の最終の例えば職場、役職、現在何をしているかなどというのはすぐ分かるわけですか。

#### **知事**

大体分かります。部長クラスと次長クラスです。

#### **座長（議長）**

暫時休憩します。

午後 3 時 23 分 休 憩

午後 3 時 23 分 再 開

### 座長（議長）

協議会を再開いたします。

### 渡部議員

それでは、ここでもあえて出すことはできますか。

### 知事

できます。

### 渡部議員

では、お願いします。

### 知事

かつて秘書課長をやった佐藤君です。佐藤浩二君か。それから、今退職して、病院機構の遠藤という者です。それから、最後、ちょっとどこで辞めたか分かりませんが、たしか能代商工会議所に行ったこともある和泉君。それと、ケーブルテレビに行った高橋という者です。この4人です。

### 渡部議員

あえて名前を聞いたのは、先ほど部の関係とかいろいろ——例えば一部の報道では仲よし人事とか、そんなことが出ています。知事の名誉のために、やはりそこら辺はきちんとしておく必要があると思います。私の認識では、名前を公表したことは分かっていませんでしたので、いずれこれは参考にさせていただきます。

きょうの朝の地元新聞に——先ほど渋谷議員もゴルフをやるのが問題ではないし、飲むことも問題ないと。確かにそうなのですが、やはり状況が状況で、有識者などからはそういった気象状況のときに出かけることがどうか、あるいはすぐ帰れない態勢がどうか。危機管理の問題からすれば、お酒は普通は口にしないと私は思うのですが、どうですか。

### 知事

そういう状況であれば、やはりお酒は控えるべきだと思います。ただ、今回の事案では、結局終わってから午後5時ごろから飲んだ。ただ、その記者の方の質問にお昼の状況までなかったものですから。また当時我々のお昼のゴルフ場の食事の時間帯における行動というものは特に取材もなかったものですから、あとは事実上——これは嘘ではございません。私自身、ちょっとそのときに飲んだか飲まないか、全く頭になかったのです。ですから、そこは飽くまでも問題の本質は午後5時の段階で飲んでいきますから、その段階のことについてお話をちゃんとしたという。ですから、その前の段階は私の頭から抜け落ちていたというのは事実です。

### 渡部議員

言葉尻をどうこうするつもりはないのですが、先ほどの渋谷議員ではないのですが、やはりしっかり言ってもらわないと。特に記憶にないとか、記録にないというのは国のやりとりに似ているのです。したがって、今この期に及んで——全てをつまびらかに、それを一番求めているのは誰なのか。県民なのです。県民が納得しなければ、今回のいろいろな

收拾がつかないと思うのです。そこはやはり曖昧な返事ではなく、しっかりとした回答を求めているのではないかと私は思うのですが、どうですか。

#### **知事**

全くそのとおりだと思います。実際、お昼の段階で、気象情報収集から秋田県が非常に危機的な状況ということを感じていると当然飲んでいないはずです。ですから、多分飲んだろうという、そこなのです。大変申し訳ない。何を食べたかの記憶がないのです。それは事実です。私も飲んだような、飲まないような、実際のそのときの状況からすると、そこは嘘と言われればそれまでですが、実際にそのことまでは頭の中になかったのです。3日前に何を食べたか分かるかという、少し分からないです。いつも夏にゴルフをやる場合、医者から脱水症状があるので飲まないようにと言われていました。ただ、たまに自分で運転しないときはやるときもございますので、もしかしたら飲んだかもしれないということで、そのときは後で飲んだということが分かるとこれは困りますので、飲んだということを行ったのですが、はっきり飲んだかどうかは私自身もいまだ定かではないです。

#### **渡部議員**

知事が自分でそう言っている以上は、私はこれ以上言いません。ただ知事、大分疲れているのではないですか。コメントで少し気になっていることが——「自分の時間を持ちたい、そしてこの3期目は大きな仕事がある、いろいろある。」、そういった意味で、先ほどの答弁でも「実のことを言うと楽になりたい。」——こういう気持ちというのは疲れ、あるいは緊張感のなさから来るのかと私は心配するのですが、その辺はどうですか。

#### **知事**

実際自分としては、実は病気のせいもあるでしょうが、疲れがかなりあってつらいときもございます。そういうことではありますが、そういうことは言っていられませんが、できるだけ県民の皆さんの要望に応じていろいろな場面に出るようにしています。実際にはかなり控えてはいますが、夜は早く寝るように。ただ、仕事の内容が非常に複雑、多岐に及びますので、体力的に非常につらいときもあります。それは事実です。ただ、それは決して言い訳になりませんので、全力で今やっています。

#### **渡部議員**

きょう、最も私が聞きたいところを伺いますが、県知事は国と違って支持率は出ていませんが、もし今県民に支持率を問う場合、知事はどの程度になると想像しますか。

#### **知事**

相当低いと思います。

#### **渡部議員**

私も恐らく内閣の支持率よりは低いのではないかと、そんな認識があります。なぜそんなことを今聞いたかという、先ほどの質疑にもありましたが、今回のいわゆる虚偽説明に対して、現職部長2人を同行したこと、それをやはり素直に言わないという、つまり隠した、嘘をついたということに対して県民の信用を失墜したという見方が強いのではないかと。例えば県民として恥ずかしい、責任をとって辞任すべき、あるいは一連のそういった知事の対応に対する県民の反発が非常に多いということで、先ほどメールの話もしましたが、苦情や要望が7日時点で353件、そしてその95%が批判的な意見とのことですが、この現状を知事はどのように感じますか。

## 知事

このような私の行為については、そういう批判が出るのは当然だと思います。そういうことで、非常に厳しい御意見は当然あると思います。

## 渡部議員

それから、特にショッキングだったのは、ある職員が——これもマスコミ報道で知っていることなのですが——「県庁はこれで終わりです。」と、「職員も含め一から出直さなければならぬ。」とため息交じりで話したと。私は職員の士気という問題からするとこれは大きな問題ではないかと思っています。これから人口減対策などいろいろな課題を背負っているときに、職員の意識が低下していくのは、これはリーダーとして非常に問題ではないかと思いますが、知事はどう思いますか。

## 知事

職員に対して指示、命令をする本人が正にあるまじき行動をとったということは、職員に対しても非常に申し訳なく、また職員自身もいろいろな面でそういう思いを抱くということについては、まさしく今議員がおっしゃったとおり非常にあってはならないことだと思います。

## 渡部議員

これまでいろいろ申しましたが、私は一つの結論として自分の考え、あるいは会派で話し合っただけを集約したことを今申し上げます。

「知事、リーダーであれば県内の危機的状況に敏感でなければなりません。初動が遅れたことや虚偽説明をしたことは、知事選で圧勝し、3期目のおごりの表れではないか。県民にとって丁寧に説明する謙虚さがあれば、虚偽説明などはあり得ません。県民が納得できるようなけじめのとり方を自分で考えるべきではないでしょうか。」——これに対するコメントを下さい。

## 知事

正に今議員がおっしゃったとおりの状況であります。最終的には自分でこういうものは決めなければなりません。そういうことで、今のお言葉については極めて重く受けとめて、今後いろいろな面について考えてみたいと思います。

## 渡部議員

終わります。

## 座長（議長）

以上でみらい会派の質疑は終了いたしました。

次に、社会民主党会派の質疑を行います。まず、石田寛議員の発言を許します。

## 石田議員

いろいろ話を聞いてきましたが、納得がいきません。確かに知事は、おわびで何としても県民のために頑張りたいと、県政は県民の幸せと生命と財産を守るのだという話でしたが、本当にそうなるのかという心配があります。知事のその危機意識の問題と、同行した2人の部長だけの問題ではなく、県庁幹部が本当に県民の命と暮らしを守る砦になっているのか。県民は、暮らしを守ってほしい、その砦は県庁なのだと、その県庁が本当に県民のほうを向いているのか。嘘をつかれてがっかりして、誰を頼りにすればいいのという県民の声が聞こえてくるので、どうやってこの状況を挽回していこうと考えていますか。

まず、それをお聞きします。

#### **知事**

まずは、今の災害の状況について、極めて重要な問題ですので、これについてはあらゆる手段を使って、とにかく復旧、復興に——実際にあの状況の中でも建設や農林の職員については徹夜で頑張っていますので、その職員方を鼓舞しながら、これに全力を尽くすということと、まだまだ多くの課題がありますので、何とかこの課題について答えを県民の皆さんに少しでも見せるという努力が正に非常に——単なる単純な努力というよりも身を削るような努力が必要であろうと思います。

#### **石田議員**

私は、初動態勢のことを特に問題視しております。例えば4年前に県北で豪雨があり、大館市が大変な被害を被りました。氾濫、決壊し、田んぼに大きな砂利が入り、もう農家が泣いて暮らした。あのときは、仙北市でも土石流が発生して6人が亡くなっているのです。4年前にそういうことがあったのに、なぜ新聞やテレビの天気予報を見る努力がなかったのか。4年前のあの教訓が何も生かされていないのではないのかと思うのですが、いかがですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

御指摘のとおり4年前、ああいった災害があり、その際も初動についていろいろ課題があり、その教訓を生かすというようなことにしていたと理解しています。そういった意味では、当日の午前中、朝からの状況について可能な限りの情報収集はしたつもりではありますが、様々な情報を総合的に勘案して十分な見直しを持てなかったということについては、先ほどの繰り返しになりますが、状況判断がなされておらず、そういう意味では教訓が生かされなかったということを深く反省しております。

今後、そういった初動態勢についても的確に体制を組んでいけるよう見直しをしたいと思っておりますので、改めて今回の教訓を生かしてしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

#### **石田議員**

危機管理体制の見直しの4項目を先ほど見ましたが、「えっ、今ごろこんなのを議論しているのか。」という思いがあり、少し怒りが湧いてきます。

まず、25市町村がある中で、17市町村で家屋が浸水したということ、いつごろ把握しましたか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

17の地点で観測史上最高になったということにつきましては、いわゆる降り始めからの降雨量というようなことで記録された日時は、災害が進行していた22、23日以降の24日に記録が気象台から発表されております。そういう意味では、当日の段階ではそのぐらいの記録的な降雨状況だったというところまで少し我々の理解が行き届かなかったということでもあります。

#### **石田議員**

25自治体のうち、17自治体が水に侵されていたというのをいつごろ把握したのかということ。秋田県は、日本で6番目に面積が大きいのです。25自治体のうち17といたら3分の2の自治体の家屋が水に侵されているわけです。そういう事態になっても

まだ災害連絡室でしょう。我々社民党として、知事が不在で、副知事に要望を出したときは、まだ災害連絡室です。17自治体、3分の2の自治体が水に侵され困っているときに、なぜまだ災害連絡室なのか、その把握がどうなのかということです。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

多くの市町村で冠水がされているという状況、当日は各市町村に様々な体制が組まれて、そこからの被害状況を逐次報告をもらうなり、あるいは市町村によってはなかなか報告する余裕もなく、我々災害連絡室のほうで問い合わせをしたりといった形で、極力そういった現状把握に努めたところでもあります。そうした中では、実際にこの市町村で冠水が発生しているという詳細な状況までは、22日の段階では十分把握し切れていなかったというのは事実であります。そうしたことがあったからということではなくて、先ほど御説明したとおり、様々な収集した情報を基に、その先の見通しをしっかりと判断すべきであったと思いますが、その判断が甘く、きちんと必要な体制を組まないまま過ぎてしまったということで、大変反省をしているところでもあります。

#### **石田議員**

知事が不在の場合は、やはり副知事が責任者です。そういう点で、先ほどお二人からお話がありましたが、私はあなた方も危機意識がなかったのではないのか、足りなかったのだということと——それから併せて3人が不在にしていた時間があったということはどのように理解すればよろしいですか。ある時間3人、知事と副知事が県庁、秋田市、あるいは県内どこかに不在だということをマスコミ報道で見たのですが、それはどうですか。

#### **副知事（堀井）**

まず、知事、そしてまた両副知事の3人、最大限誰か一人は少なくとも県内に滞在するように努めてはおりますが、ただいろいろな事情によって3人とも、例えば県外に出るということもこれまででもなかったわけではありません。ただ、今回は結果的に私と中島副知事が県外にいた際に、知事も含めて3人とも県外にいたという時間が2時間ほどあったということであり、こういう点については非常に反省をして対策を講じなければいけないと思っています。

それから、もう一点は、確かにある意味で危機管理監と一緒に、知事が戻るまでの間、私が先頭になって危機管理に当たったわけではありますが、その間例えば災害対策本部に格上げをすとかという対応を私もとるべく努めなければいけなかったと思っております、この点については大変反省もし、そしてまたこれからの教訓にしなければいけないと思っています。

#### **石田議員**

副知事から今お話があったように、気がついた方が進言をする。今挽回するということは、知事ではなくて県庁の皆さんが一丸となってお互いに思ったことを言えるような環境を作れるかどうかには私はかかっていると思うのです。幾らゴルフ場だとしても防災上からすれば防災ヘリを呼んで、自分で招集した会議に出るぐらいの考えを持たなければならぬと私は思います。いつヘリコプターを使うのですか。どう思いますか。

#### **知事**

そこまでいなくても、私が的確な判断をしていれば、その時点においては通れる道もありますので、朝早くまで着くことは出来ました。そういうことで、私自身の一番の判断

ミスということがあります。場合によってはそういう手法もとることができますが——かつてたしか寺田知事が防災ヘリを使った——ただ私からすると、例えば今はいろいろな通信手段がありますので、やはり防災ヘリは実際の被害地に使うのが優先されるということで、私はそこまでは至らなかったです。

ただ、いずれ今にして思えば湯沢市に親しい友達がいますので、呼べばすぐいつでも来てくれます。彼を呼んでいけばよかったということで、その友人も「そのときに私を呼んでくれればすぐ行った。」とのことで、本当に悔やんでおります。

#### **石田議員**

終わります。

#### **座長（議長）**

石田寛議員の質疑は終了いたしました。

次に、加藤麻里議員の発言を許します。

#### **加藤（麻）議員**

今回の知事の問題については、私にも県外に住む秋田県出身者から怒りのメールが届くなど、本当に県民の信頼を損ね、秋田県のイメージダウンにつながったことが、残念でなりません。残りの質疑時間が少ないので、少し省略しながら質問いたします。今回の災害のことですが、2点、非常に問題点があると感じています。被災地を回って感じたのは、堤防がところどころ途切れている。その部分から水があふれ出したという点です。住民の皆さんは、何が一番困惑しているかということ、6年前も同じような洪水があり、そして今もまた同じ地域が洪水になったという点です。それで、非常に複雑な思いでいるということを感じました。それはなぜかということ、なかなか用地買収が進んでいないということでしたが、この用地買収を進めるということに対して、県は大きな責任があるのではないかと思います。途切れている部分というのは事前にはっきり分かっているわけですから、これは予測できた課題ではないでしょうか。そういったことも含めまして、この用地買収の工夫がされていたのか、そういった部分について県の責任が大きいと思いますが、いかがでしょうか。

#### **建設部長**

県が河川改修等の事業を行っている場所につきましては、鋭意用地買収を進めるようにしております。少し私が今イメージしていたのは、雄物川の河川改修では、確かに河川堤防、用地買収がうまくいかなくて切れているところがありました。この間国土交通大臣が秋田に来られた折も、その現地を見ていただいておりますが、神宮寺ではそういった切れたところがありまして、その用地については国土交通省としても鋭意取り組んでいるという話がありまして、実は今朝たまたま能代河川国道事務所の所長と話す機会がありまして、聞きましたら、昨日調印いただいたということでした。

【「湯沢」と呼ぶ者あり】

（※27ページで発言訂正あり）

#### **建設部長**

湯沢です。申し訳ありません。神宮寺のあそこのところについては湯沢河川国道事務所でした。そこは、そういうことで地元関係者から用地買収の理解が得られたので、これから一生懸命前に進めるということでありましたので、県につきましても国と一緒に前向き

に取り組んでいきたいと思えます。

(※ 27 ページの発言を訂正)

**加藤（麻）議員**

もう少し具体的に、どことどの部分が進んだということですか。

**建設部長**

ただいま話しました神宮寺のほうにつきましては間倉地区です。そこについては、昨日用地買収の方向性が見えてきたということです。

**加藤（麻）議員**

分かりました。でも、今になってこういう事態になるというよりも、6年前もそういう洪水になったわけですから、これまで、この6年の間にもこういった問題点については、県としてやはり強く要望していきべきだったと思えます。是非今回の雄物川の西仙北地区、北野目、寺館など、つまり西仙北のインターチェンジの辺りも冠水したので、是非そういった部分についてもきちんと用地買収を進めるように県として是非とも強く働きかけていただきたいと思えます。

それから、もう一点ですが、中途半端な中小河川改修は、逆に水位が上がって、かえって氾濫する原因になるということで、国直轄の事業と連動しながら、必要な水位が保たれるようなかさ上げ、それから州ざらい等、河川改修をすべきと考えます。今回もその現場を見に行き、やはり刈和野地区でいつも水について問題になる土買川ですか、それからもう一つ、福部内川などの州ざらいが適切に行われていないと感じました。堤防の問題もありますし、そういった川の州ざらい、それから堤防が低いとか、そういった部分について常日ごろから対策をきちんととっていることによって、今回のこういった大きな災害にもつながらず予防にもなったと思えます。その点についていかがでしょうか。

**建設部長**

おっしゃるとおりでございまして、そこは計画的に進めていかなければいけないと思っております。堤防がしっかり河川計画に基づいて造られればいいわけですが、時間もお金も掛かります。そういうことで、計画については今あるものを適切に進めていくことがまず一つと、それから現在ある河川の断面を有効に使うということで、議員がおっしゃいました州ざらいですとか、あるいは伐木などをしながら川の水をスムーズに流すようにすることに今取り組んでいます。今回の件を契機に、更にこれを予算化してやっていければと思っております。

ちなみに、これに関しましては、知事が先ほど申しましたように、この間国に予算要求、今回の災害についてのお願いをしてきたわけですが、州ざらいや伐木というのはなかなか交付金で認められない事業です。そういうことで、これまでは県単独で行ってきたわけですが、「それでは非常に県民の負担が大きいので、是非これを国として予算的にも支援してください。」ということを知事からも要望してもらっています。

**加藤（麻）議員**

地域を回りますと被災地の皆さんからは、市や町の職員の対応、そしてまた県職員の応援に対して非常に心強かったという声もあります。非常に大変な時期ではありますが、県一丸となって復旧事業を強力に進めていただきたいと思えます。これで終わります。

**座長（議長）**

以上で社会民主党会派の質疑は終了いたしました。

次に、民進党会派の質疑を行います。沼谷純議員の発言を許します。

#### **沼谷議員**

知事に伺いますが、本当にお昼からお酒を飲んだか覚えていないのですか。

#### **知事**

一般的にはお昼——医者にはなるべく夏は飲むなど。それで、多分普通はジンジャーエールを飲むのです。ただ、そのときに夏ですので、飲んだかもしれない。ですから、逆を言えばまた問題がありますので、一応飲んだということに、そういう答えをします。これ、なかなか実際にはいろいろなほかのゴルフ場にも行きますので、全部混同してしまうのです。そのときに時間も余りありませんでしたので、ちょっとそこは本当に記憶が定かでないです。

#### **沼谷議員**

これだけ重大なときに酒を飲んだかどうか、自分で分からないということであれば、一回医師の診断を受けたほうがいいと思いますが、どうですか。

#### **知事**

受けます。

#### **沼谷議員**

記者会見では、「何時から飲んだのですか。」と聞かれています。知事は、「5時から」と答えています。知事、それなら結果的には県民に虚偽説明になっているのです。認めてください。

#### **知事**

虚偽といったつもりはないのですが、お昼のことは、例えば飲んだとしても200ccぐらいだと思います。このぐらいのものだと思います。ですから、2時間ぐらいでアルコールはなくなります。これもいろいろな捉え方があると思うのですが、ゴルフでお昼に飲んだことを飲み始めというような捉え方を私はしていなかったもので、やはり宴会、みんなと一緒に飲むのを飲み始めと捉えていたものです。お昼は清涼飲料水のような感じで飲んだ。そこで、それを連続してというような、かつてなかったものですから、ただ捉え方によっては時間が多少あってもその日の一番最初に飲んだのがもしお昼だったら、そういうふうに捉えても仕方ないと思いますが、一般的にはそういう捉え方は、私はする人としていない人がいると思いますが、私自身はお昼はそこでいったん止まりますので、それからずっと飲めば別ですが、そこはどうなのでしょう。ゴルフをやっている方は、そう捉えますか——お昼に少し飲んで、夜、宴会でずっと飲んだという、それは飽くまでも私の考えかもしれませんが——もしそう捉えるのであれば認めざるを得ません。ただ、今でも完全に飲んだか飲まないかというのは、まだ記憶にないということです。

#### **沼谷議員**

ゴルフをやっている方の捉え方は聞いていません。つまり飲んだから帰れなかったと、そう知事はおっしゃっている。だから、夕方に飲んだからもう帰れなくなったと。昼から飲んだら、もうその時点で帰れないではないですか。

#### **知事**

いや、もし飲んだとしても全員は飲みません。飲まない人もいます。

**沼谷議員**

このゴルフ場のホテルは、6月以降宿泊の利用を停止しています。なぜ泊まれたのですか。

**知事**

いや、泊まりました。

**沼谷議員**

8人以上ではないと宿泊を受けないのです。7人で泊まれたのですか。もう一人いらっしゃいませんか。

**知事**

泊まりました。

**沼谷議員**

県民の皆さんが大変苦しんでいる中、恐らく特別な計らいでゴルフを楽しまれたのだと思います。正午には大館市に避難勧告が出ています。知っていてお昼にお酒を飲んだのですか。

**知事**

この大館市の避難勧告については、残念ながらその時点でメールを見ていなかったと思います。

**沼谷議員**

しかし、記者会見ではプレー中には避難勧告などいろいろ知っていたと。でも、そのまま飲み始めてしまったと、これ確信犯ではないですか。

**知事**

その後、午後3時、4時になってそういうメールがどんどん鳴り始めましたので、その時点で見えています。正に避難勧告を知ってから飲んだということは確かであります。

**沼谷議員**

それから、記者会見で知事は18時40分、つまり午後6時40分に国土交通省のホームページで芋川の氾濫を知ったと、大変危機意識を持ったが、帰れなかったと、こうおっしゃっている。このときにどういう情報を得て、どういう話し合いをしたのですか、教えてください。

**知事**

正確に言えば芋川ではございません。芋川の氾濫は午後11時台です。ただ、国土交通省の情報は18時四十何分ごろに出ています。要するに子吉川水系が今後氾濫のおそれがあるので、注意体制から警戒体制に移るという発表が国土交通省からあります。あの時点で、子吉川水系といいますと一番最初に氾濫するのが芋川ということは大体分かっていますので、これはこのままでいくと芋川が危ないなという状況で国土交通省がランクを上げたものですから、その段階である意味でお酒を——帰らなければならないのだというような判断をしたわけです。

**沼谷議員**

記者会見によると、芋川の氾濫の水位ということでびっくりしたと言っていますが、では芋川ではないのですね。

**知事**

子吉川水系ということであります。ただ、経験則的に子吉川水系であれば、実際に氾濫したのは芋川ですので、午後11時ちょっとごろに。前にもその場所を視察していますので、その場所について芋川が危ないなということは直感したわけです。

#### **沼谷議員**

それから、今回同行したOBの方4名、私もよく存じ上げています。一緒に仕事をされた方もおります。その中にお酒飲めない方、下戸の方がいらっしゃるのではないですか。その時点で一緒に帰ろうと思えば帰れたのではないですか。

#### **知事**

遠藤君ですが、彼、本来飲めないのです。ただ、たしかワインか何かを一、二杯飲んだという記憶があります。

#### **沼谷議員**

知事は、午後7時にはお酒を飲むのをやめたとおっしゃっている。同じように記者会見で、迎えに来てもらおうと思ったが、夜中だから無理とおっしゃった。18時40分あるいは午後7時を夜中と言う人はいませんよ、知事。

#### **知事**

確かに今のとおりの時点でもう少し重大性を感じていれば、その時点で迎えに来てもらうことはできたと思います。ただ、一番重大に感じたのは、やはり芋川の氾濫、23時、この時点で部屋ですっと起きていましたので。一番非常に危ないというのは、その時点です。ですから、午後11時ですので、その時点で迎えに——これも先ほど言ったとおりで友人に言ったら、「何時でも行けた。」ということで、今は後悔しております。

#### **沼谷議員**

午後7時以降、2人の部長は何をして、何時に寝て、何時に起きましたか。一連の行動を教えてください。

#### **観光文化スポーツ部長**

私どもは、知事がその場からいなくなってから、そのときはまだ知事以外の方はいましたので、そこに出ていたお酒を飲んで、何となく流れ解散のような形で皆さん三々五々、部屋に行きました。それから、水澤部長と2人でその場所を片づけて、それから寝たので午後8時半ぐらいにはその場所からいなくなったと思います。

#### **産業労働部長**

セルフサービスでしたので、飲んだものを片づけながら、午後8時半か9時か、ちょっと時間を正確には覚えていませんが、いずれ片づけを終えて、それから自分の部屋に帰っております。

#### **沼谷議員**

3人一緒の部屋だったのですね。

#### **産業労働部長**

部屋は、それぞれ別々です。1人ずつの部屋です。

#### **沼谷議員**

記者会見と違いますが、そこは知事、どうですか。

#### **知事**

私は少し高い部屋でツインですが、ほかの人たちはシングルかどうか、どこの部屋に泊

まっているかまでは存じておりません。

#### **沼谷議員**

一緒の部屋にというふうに新聞記事になっていますので、確認してください。

要は午後7時に寝たか、部屋に入ったか——午後8時か午後9時か分かりませんが——そろいもそろって、そこから電話一本誰にもかけない、どこにも確認しない。知事は、タブレットで23時の芋川の情報を見るまで起きていたと言いますが、起きている間何していたのですか。ただひたすらインターネットをやっていたのですか。そうだとしたら危機管理能力ゼロではないですか。

#### **知事**

最終的に寝たのは午後12時近くで、ただ朝早く行かなければならないという、そういう頭があったものですから、結局目を覚ましたのが午前3時ごろですが、いずれ気象情報等についてのニュースも見ながら。ただ、宮城県ですので、余り秋田のニュースが入りません。いずれこの段階で、今見ますと午後8時台から午後11時の芋川の氾濫の情報が入るまで7通のメールが来ています。このほかに秋田市のメールが入りますので、約10通ぐらいのメールが来て、こういうものも参考にしながら、国土交通省の情報も見て、確かにその時点で全体を掌握して、正に行動に移せばよかったというのは、それが正解だと思います。その時点で行動を起こさないというのが正に私のミスだと思います。

#### **沼谷議員**

お酒を飲んだ後、ゴルフをしたということは仮に横に置いたとしても、こういうことが出たとき、気づいたときになぜ3人ともそれぞれ部屋を片づけてゆっくり部屋に戻って、あるいはそれぞればらばらにというのは——何かそこで集まって電話をすとか、確認すとか、指示をすとか、そこが出来ないというのは——しかも記者会見ではOBの方は心配になって家に電話をしていると言うのではないですか。なぜお三方とも電話一本されないのですか。私はそういうことにびっくりします。危機管理監うんぬんという話がありましたが、そもそもそこがおかしいではないですか。危機管理監の責任というよりもそこは知事の責任です。

#### **知事**

最終的には私がそういう指示、あるいは私自身が電話をして情報を分析しながら行動を起こすべきだと思います。それは、正にそのとおりです。

#### **沼谷議員**

もう一つ、遊びに行ったので、公用車を迎えに来させるわけにはいかないと記者会見ではおっしゃった。けれども、結局次の日、翌日に公用車で迎えに来させています。これは、合法ですか、違法ですか。

#### **知事**

秋田市内の状況——私の頭ではどこか市内で万が一冠水があれば道路が止まりますので、道路情報をすべからく——なかなか分かりませんので。いろいろな情報等を取りましたが、市内の東署までは何とか行けそうだったということでしたが、その先の仁井田のほうは駄目でした。ただ、例えば中央道も場合によっては止まる場合もあるので、そういうことも含めて帰りにスムーズに帰るという前提で、県庁に入るという前提であそこで待ってもらったというのは公用車の使い方として最低限許されるのではないかと思います。

### 沼谷議員

公用車は緊急車両ではないですから、一般の車と同じように渋滞すれば渋滞、通行止めは通行止めではないですか。知事の私用車と何ら変わらない。その説明はおかしいです。

### 知事

市内の状況は分かりませんので、公用車があそこまで行く段階で、やはり市内の情報は市内にいれば分かりますので、そういう意味からすると私の情報量よりも公用車の情報量のほうが多いので、そう解釈したと思います。

### 沼谷議員

総務部長、この私用の帰りに公用車を使うというのは認められているのですか。

### 総務部長

私用の帰りであっても、その次が公務であれば、そういう使用は認められます。

### 沼谷議員

そうであれば初日に公用車を使っていれば、恐らく県民の皆さんを守るための緊急行動だったのです。それは、非難はあったかもしれませんが。でも、知事は自分を守るために公用車を使用しているのではないですか。着がえて、部長の2人を帰して、何事もなかったかのように県庁に行くために公用車をそこで待たせて使っているのではないですか。そんな使い方は県民の皆さんは理解しません。

### 知事

いったん真っすぐ行けば良かったと思いますが、ただいずれ当初の段階では11時前に着く予定でした。それで、そういうことで11時前に着くとすると、時間的余裕がありますので、まずいったん公舎に帰って——それが途中から11時前に帰れないということで、そのうちに秋田市内の浸水情報がどんどん入ります。果たしてどういう道路を通ればいいのか分からないという状況もありますので、東署までは協和から行けますので、念のためそこまで調べてスムーズに県庁に行くような道を選んでということで、公用車に連絡したということです。ですから、その捉え方については、そういう捉え方をされるとそのとおりかもしれません。

### 沼谷議員

知事は、記者会見でも許されない状況になれば、自分で出处進退を考えるとおっしゃっていますが、既に許されない状況にあると思いませんか。

### 知事

極めて様々な御批判は受けておりますので、非常にそういう意味では遺憾な状況ではあると思います。

### 沼谷議員

私は、知事はスリーアウトだと思います。県民よりもゴルフと飲酒を最優先した、この判断ミスがワンアウトです。2つ目は、知事はその夜に結局何も判断せず、何も指示もしなかった、この不作為でツーアウトです。3つ目は、もちろん虚偽の説明、公用車を不正かどうかは別にしても、そうやってごまかして県民の皆さんに嘘をついたと、これでスリーアウトです。だから、判断ミスと不作為と虚偽、スリーアウトチェンジです。知事がやっていることは全部自分ファーストなのです。違いますか。

### 知事

そういう御批判は、受けざるを得ないと思います。

#### **沼谷議員**

一緒に同行されたOBの方々、現職の部長お二人、個々のことを申し上げませんが——知事、県庁を食糧費時代の酒と接待で信頼を失った、あの古い県庁の時代にみずから時計の針を逆戻りさせてしまったという自覚はないですか。

#### **知事**

非常に県民に対して極めて申し訳ないことをしたということは、重々刻んでおります。

#### **沼谷議員**

先ほど部長のことを「メールを受信するようになっていなかったので処分する。」とおっしゃった。では、メールを受信して、あるいはいろいろなことが出来る知事が、何もしなかった知事はそれ以上のもっと重い処分があるはずですよ。それは知事御自身も分かるはずですよ。知事、どうですか。

#### **知事**

おっしゃるとおりだと思います。

#### **沼谷議員**

最後にします。いわゆる市町村に災害本部がどんどん立ち上がっている中でも、これを知事が不在ということもあって——休暇ということもあったのですが、そういうことをもろもろ忖度をして——災害連絡室のままで会議も開かなかったと。あるいは、県の総務部から市町村には有事の際にはインターネット、ソーシャルメディア、ツイッター、こういうものを使ってしっかりと情報発信、収集してくださいと指導しているはずですよ。しかし、これもこの2日間、一度もツイッターもフェイスブックも更新されていないですよ。ホームページは、後からさかのぼったかのような——それはいろいろな解釈があるかもしれませんが——そういうことをやっているわけです。そして、挙げ句に知事が嘘をついたことを何とも思わない、変だと思わないと、こういうことでは大変困るというか、組織としておかしいではないですか。県民を守らなければいけない県庁が知事を守るための組織になってしまっているのです。今回のことは非常に懸念します。その組織を知事は立て直さなければならないのですが、そういう組織を作ったのは知事自身ですから、私は知事にそれが出来るとは思わないのです。

#### **座長（議長）**

沼谷議員に申し上げます。会派への割り当て時間を超えましたので、質疑をまとめてください。

#### **沼谷議員**

そういったことも含めて、知事御自身の責任、判断を、しっかりと出处進退を考えていただきたい。私は、身を引くべきだと思います。以上です。

#### **座長（議長）**

以上で民進党会派の質疑は終了しました。

次に、公明党会派の質疑を行います。田口聡議員の発言を許します。

#### **田口議員**

大分厳しい意見が出ていますが、知事、平成18年豪雪は覚えていますか。

#### **知事**

はい、覚えています。

#### **田口議員**

当時知事は、秋田市長でしたよね。平成17年の暮れから大変な豪雪で、秋田市内在が麻痺して市民生活にも大きな影響を与えたと。そのとき知事はどうされていましたか。

#### **知事**

私も市長になってから初めてですし——実は昭和48年にあれ以上の豪雪がありました。あの記憶がありましたが、あのときはまだ職員になってすぐです。あのときは、本当にすごい雪で、全く動きがとれないと。あの昭和48年まではいきませんが、車社会になったものですから、これは大変だということで、私自身約1カ月間、作業服、ヘルメットで、夜もずっと現場の指揮をしたという記憶があります。

#### **田口議員**

今の県議会議員の中で知っている方はなかなかいないと思うのですが、そうだったのです。年末年始、不休でこの豪雪対応に当たって、8日に私と井上幹事長が市役所におりまして、今後どういうことをお手伝いできるのかという話を伺った記憶があるのです。そうやって平成18年、知事は当時市長で頑張られたのです。平成23年3月11日も覚えていますか。

#### **知事**

覚えています。正に議会の最中でした。

#### **田口議員**

このとき議会の最終日で、秋田県には被害がほとんどなかった。知事はその後すぐ被災地の支援に先頭に立って当たったのです。岩手県におにぎりを送りました。いくら送ったかという、5日間の間に約8万5,000個、その後宮城県にも送ったのです。大体1カ月半の間に91万個を送っているのです。DMAT（災害派遣医療チームのこと）、人も派遣し、そして被災者の受け入れをしました。最後は、渋谷議員とも議論になりましたが、瓦れきを受け入れしたと、こうやって頑張ってきた知事なのです。それが今回非常に残念なのですが、今追及を受けていると。私は、市長時代、そして今までの県知事の姿を見てきた一人として、また被災をされた方々、その心情を思うと本当に残念でならない。まず、これを申し上げておきたいと思います。

それで、知事がいなかったと。では、知事がいなければ副知事2人が対応しなければいけない。それがいない時間もあつたと。そういう場合、危機管理監がしっかりやらなければいけないと。危機管理監は、知事とどういう連携をとられたのか、そこをお聞かせください。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

今回の22日、23日の災害に当たりましては、先ほど来お話ししているとおり、午前9時過ぎに土砂災害警戒情報が出た際、災害連絡室を立ち上げ、以降県内の様々な状況について何回かにわたってメールで報告をしたということです。

#### **田口議員**

それは連携とは言いません。ただの報告、連絡です。それだと対応できないではないですか。なぜ一本も電話を入れなかったのか、非常に私はそれが悔やまれるのです。知事からもそうですし、危機管理監からもそうです。副知事からも電話が入っていない。電話一

本入れていれば、秋田県の現状が分かるはずだったのですが、それを逸したということは非常に残念です。石田議員もおっしゃったのですが、今回の対応について、知事も含め、県の幹部の責任はやはり大きいと思います。どうですか。

#### **知事**

最終的には私の責任です。ただ、今思えば最初に危機管理監制度を設けたとき、その危機管理監であった大石という者が——彼は昔私と一緒にいたこともあって、当時メールがあったのですが、うるさいくらい電話をすぐかけてきたということで。私は今回のそういうことは危機管理監の責任というよりも——代々危機管理監が代われば一番やりとりをします。何かあったら遠慮なく連絡ということで——ただ、今回人事異動で危機管理監がすぐに代わったものですから、そこについて現在の鎌田君にしっかり私から「遠慮なくいつでも電話しろ。」ということをお話しておけばよかったと思います。今までの危機管理監については、いつもそういう話をしていましたが、急に代わったものですから、そこは言いそびれたままで来たということは、自分自身で非常に残念だと思います。

#### **田口議員**

すごく懸念しているのは、これは意識しないで、知らず知らずのうちに知事に進言したり、物を言ったり、そういうふうなことができない雰囲気は幹部の中に出来ていたのではないかと。それがあれば困るなということです。これを改めてそういうのをまず払拭してもらいたい。いかがですか。

#### **知事**

正にそのとおりで、そういうことからして、先ほど自民党の議員にもお話ししましたが、そういった責任をしっかりと果たすように、何でもかんでも私が口を出さないように、そして結果責任は私が負うというふうに各部局などの自立性を高めなければならないと思います。

#### **田口議員**

今話をしているのが本庁の事務方、幹部の話です。では、今回の水害で現場はちゃんと動いていなかったのかという話です。その現場を抱えている建設部長と農林水産部長に伺いたい。どうですか。

#### **建設部長**

建設部関係では、先ほどもお話ししましたが、警報が出た段階で、まずすぐに登庁するようになっています。これは、現場と本庁の両方です。道路も河川も出ております。現場で集めた情報を本庁で集約しまして、必要があれば、例えば河川の水位が上がってきたとか、道路がここで寸断されているとか、そのような情報があれば市町村、警察、国、そういった関係機関に連絡するような体制をとっております。

#### **農林水産部長**

大雨に限らず、爆弾低気圧、台風や大雪など自然災害があれば必ずと言っていいほど農業被害は出ますので、一年を通じてふだんからそうした警報なり天気の状態を見て、速やかに被害の状況を把握する体制をとっています。このたびの豪雨に際しましても、22日土曜日の午前中には部の主管課の農林政策課、それから災害を取りまとめる水田総合利用課、そして土地改良関係の農地整備課のそれぞれの担当者が土曜日のうちから詰めていまして、既に地域振興局に2次被害を注意しながら被害状況を把握するように指示をしてい

ます。23日以降は議員がお分かりのと通りの対応をとっている状況です。

#### **田口議員**

今両部長からお話があったとおり、県庁のトップの上のほうで災害対策本部を作る、作らない、そういうミスや遅れがあったにしても、もう現場はちゃんと動いていたのです。それがあから今回の災害で人的被害も出なかったし、その後の対応も我々農林水産委員会は2日目に現場等へ入っているのです。現場はしっかり対応している、動いていたということを確認したかったのです。知事、どうですか。

#### **知事**

正に私の失態にもかかわらず、現場の職員が最善を尽くして災害に当たったということについては、職員に対して非常に感謝もしますし、また私自身のことについては、職員に対しても大変申し訳なく思っています。

#### **田口議員**

終わります。

#### **座長（議長）**

以上で公明党会派の質疑は終了いたしました。

次に、日本共産党会派の質疑を行います。加賀屋千鶴子議員の発言を許します。

#### **加賀屋議員**

最初に、危機管理監にお伺いしますが、22日の段階では詳細な把握ができていなかったという答弁が先ほどありました。22日の状況もかなり県内のいろいろなところで大変な状況があったわけですが、それをそれぞれの自治体などから報告を受けるというシステムにはなっていないのですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

当日の各市町村からの報告なり、あるいはこちらからの聞き取りの中では、様々な浸水等の被害状況や避難勧告等の避難情報を発令した状況などについての情報は入ってきておりました。しかし例えば具体的な冠水の状況ですとかを個々に——なかなか市町村でも把握し切れていないところもあったでしょうし、こちらとしてもそうした確認をしている市町村に対して逐次確認をするのを若干遠慮してしまったというところもあろうかと思えます。そういう意味で状況の全体像をなかなか把握しにくいという状況にあったのは確かです。

#### **加賀屋議員**

確かに災害時ですから、瞬時にというようなことは難しいと思いますが、ただ県内の災害の状況を正確に早くつかむということが適切な情報提供や判断などにつながりますので、是非この点については努力をしていただきたいと思います。これは、私が23日の午前中にどういう状況、被害が起こっているのかということをも今の段階で把握しているものを報告いただきたいと言ったときに、なかなかそれが出てきませんでした。会議に間に合うように準備をしているということでした。それは多分9時過ぎ、10時前だったと思いますが、11時から会議をされるというわけですから、そういうきちんとした情報を持って適切な会議等、その段階での判断をすべきだと思いますので、このことについては是非努力をしていただきたいと思います。いかがですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

確かに議員のおっしゃるとおりだと思いますので、こうした災害が発生している中での現状の把握、情報の収集についてはいろいろな機会を捉えて市町村とも充実させるような形で考えていきたいと思います。

#### **加賀屋議員**

次に、知事にお伺いします。先ほどもありましたが、22日、両副知事が出張でいらっしやらないということで、空白の2時間という新聞報道もあります。そういう状況や今回の気象状況の中でゴルフに行かれたという判断は、私は、危機管理が甘いというだけではなくて、やはり県の最高のトップとしてどう仕事をされるかということにも深くかかわる問題だと思います。なぜそういう判断をされたのですか。とどまるという判断はできなかったのですか。

#### **知事**

これも私の責任ですが、両副知事の日程と私の日程については、大まかにはその日に分かります。しかし実際のもう少し細かい日程を共有するという前提ではない状況になっています。ですから、そこも今回秘書課で——やはりそこについての情報もお互いに共有するということは必要ですので、これは基本中の基本のところは抜けていたと。私と両副知事の日程そのものや公務のときもおおよそどこに行っているかというのは分かりますが、何時に帰るか、あるいは何時ごろに秋田に戻るか、出るかということは全く共有をしていませんので、休日であってもそこら辺についてしっかり捉えるような手法を——別に難しいことではないですから、これは今反省点です。

#### **加賀屋議員**

今知事もおっしゃったように特に難しいことではないですよ。確認をしていればきちんと分かった問題であって——私は医療現場にいて医療事故だとか、その事故の前の段階のいろいろなことを経験してきていますが、小さい不注意だったり、確認をしなかったりが積み重なって大きな事故になるというのは、医療の現場だけではなくてどこでも同じです。行く前の判断や今回のことも話を伺っていますと、気象の情報を受けるといふようになっていなかったと、受けてもそう深刻に受けとめなかった。これを聞いている上では、県民の方たちは納得できないと思います。こういう姿勢で皆さんが仕事をされているなんて誰も思っていないから。この点については、いかがですか。

#### **知事**

正に御指摘のとおりであろうと思います。いずれ緊張感、あるいはそういう状況での情報共有、報道などについても——システムの問題もありますが、気持ちの問題が一番ですので、気持ちの問題も含めてしっかり直さなければならないと思います。

#### **加賀屋議員**

虚偽の説明をされたことに関してですが、今聞いていますと本当にこういう形で仕事をしているのかということが1点と、あとは説明が嘘だったということがあります。県民の皆さんは、真実は何かと思っていますので1点お伺いします。最初、大崎市のゴルフ場とおっしゃっていましたが、それが、加美町だったのです。それはどうして間違えたのですか。

#### **知事**

私が大崎市と言ったわけではないですが、実はこれは本当に間違いです。県内は分かり

ますが、県外のゴルフ場に行く場合に、何町にあるかということ余り気にする——私だけでしょうが、一般的にはナビの設定もゴルフ場で設定しますので、どこの町にあるかというのは非常に分かりません。これからは県外には絶対行かないようにしますが、例えばたまに行く安比のゴルフ場は何市にあるかといっても分かりません。一般にそういうのが、私の悪い習性かもしれませんが、実際に本当に最近まで分からなかったという。自分で企画するとこれは分かりますが、全部人任せで、自分で運転しないで行くものですから、そういう意味で分からなかったというのは真実です。

#### **加賀屋議員**

この間何回かの真実ではない報道を県民も含めて聞いていますので、今ここでそれが真実だとしても、なかなか県民の皆さんは「そうですか。」と納得できない状況があると思います。新聞にも県民の皆さんからの厳しい声がありますし、私たちのところにも届いています。被災者の方などは、最初のゴルフをされていたという報道を知ったときに被災された方は——自分たちも避難勧告が出て避難をして一晩避難所で泊まって帰ってきて、その処理をしていました。その場で何か要望がありますかと聞いたら、「今回人的な被害もなく本当に良かった。ただ、残念なのは、やはり知事のあの行動です。」と肩を落とされました。それから真実が、また嘘というか、それがありませんよ。本当に県民の皆さんは納得……

#### **座長（議長）**

加賀屋議員に申し上げます。会派の割り当て時間を超えましたので、質疑をまとめてください。

#### **加賀屋議員**

了解しました。説明をされても納得できないということが今の状況だと思います。申し入れもしておりますが、是非、知事の潔い自分での責任のとり方を求めて終わりたいと思います。

#### **座長（議長）**

以上で日本共産党会派の質疑は終了しました。

次に、もりやま会派の質疑を行います。平山晴彦議員の発言を許します。

#### **平山議員**

知事、きょう各議員が質問したことは、これは全て県民の声であります。大変厳しい状況にあると思いますが、まず私もそれなりの話をさせていただきたいと思います。

危機管理監に伺います。气象台とのやりとりは危機管理監が窓口なのですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

私が窓口というよりも、総合防災課長が基本的には窓口になって情報を得ています。

#### **平山議員**

実は、21日の気象情報については、ホームページでこの先行きの情報が出ているわけです。これが出るとなると、やはりその先行きとしていろいろな警報が出ると——これについては把握していましたか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

気象に関する警報につきましては、自動配信メールによって、どこの市町村にどういった警報が出たかというのは得られる状況にありましたので、基本的には把握はしていたと

ころであります。

#### **平山議員**

いや、そうではなくて、気象台から出ると、それなりにその次の警報があると、そういう位置づけにされているのです。特別警報は平成25年8月30日から3段階になったのですが、これは先があるよということで出されたホームページの記載だと——これは気象台が言っているのですが、これはそういう把握をしていなかった、理解をしていなかったということですか。

#### **総務部危機管理監（兼）広報監（兼）総務部次長**

いわゆる気象に関する府県情報というものだと思いますが、気象台等のホームページに掲載をされて全県的に注意を呼びかけるというようなものだったと思います。そうした情報が出れば、防災担当職員の中では一応情報共有がされていると思いますが、それ以上の情報の共有の広がりというのはちょっとなかったかと思います。

#### **平山議員**

その1週間前の15日、16日、17日と連休のときだったのですが、そのときにも大雨が降ってそれなりの被害は受けたわけです。その手当てをしてはいただきました。先ほど建設部長と農林水産部長のお話のとおり、それぞれ地域振興局だとか、その担当者は手当てをしていて、約1カ月間続いてそういう対策をしてくださっているわけです。そういう中で、当日、22日、朝5時46分にいろいろな警報が出ている中、7時に出発したわけです。知事は、その時点のニュースだとか、そういう気配というものを感じませんでしたか。

#### **知事**

やはり若干浮かれていたところもあると思います。そういうことで、先ほどからお話ししていますとおり、もう少し真剣に気象情報等を分析しながら自分で判断をすれば良かったと思います。また、私自身、気象の専門家でもありませんので、そういうところについて今回の反省点として、何かあったらそういう専門の情報をしっかり踏まえるということも必要であろうということで反省しています。

#### **平山議員**

9時14分に災害連絡室を立ち上げているわけです。実は、知事がプレーする直前ですが、10時19分に五城目町ではエリアメールが鳴りました。エリアメールがいわゆる秋田県の土砂災害警戒情報ということで発表になりました。そういう情報、まだ県内を走っていた時間帯だと思うのです。そういう状態で、いわゆるラジオだとか、また部長2人一緒ですから、そういう情報というものはとられなかったのでしょうか。

#### **知事**

10時20分に五城目町に土砂災害警戒情報が発せられたというのは、メールに残っていました。全体で22日の午前6時から23日の午前6時まで、私のところにメールが130通近く——これは秋田市のメールも入りますので——入っておりまして、その中で10時20分には五城目町の土砂災害警報という情報が入っています。

#### **平山議員**

そうすれば、それは途中で見られたということですか、それとも後になってから見られたということですか。

## 知事

この段階では後で見たと思います。

## 平山議員

先ほど来から話が出ているのですが、そういう危機管理のなさが全てだったと思います。いろいろな中で、ドイツの社会学者のニクラス・ルーマンという方が信頼というものについて訴えている部分があるのです。現実の社会は複雑だと、そして人間が様々な状況において特定の点では信頼を寄せられるか、寄せられないかだと。今回のことで、知事は県民の信頼を損ないました。でも、私はある意味、この先の知事の頑張り、また県庁の頑張りにより、復旧やそれ以外の県の大きな課題を一つ一つ解決していけば——知事は県民全ての信頼を失っているわけではないです。今回の数日間の対応などで信頼を大きく失っているわけですが、それを取り戻せると私は思うのです。実は、6年半前の東日本大震災の際——我々は改選の時でした——知事は頑張っていて、そして頑張り過ぎて体調を崩したのです。それから、今回も災害のときに知事がまたこういういろいろな心労やら、いろいろなことを背負い、体調を崩されたら何にもならないと思うのです。その点について、どう受けとめますか。

## 知事

大変ありがたい激励の言葉と受けとめております。ただ、今回の事案については、私自身、大変心から県民の皆さんに申し訳ないことをしたということで、また私自身のみならず県政に対する信頼を損ねたということについては大変な責任を感じております。当然今回の事案については、私の人生の中で死ぬまで背負っていくべき非常に不名誉なことと思います。そういうことで、今後とも今回の事案をしっかりと胸にいつも入れながら今後の仕事をするという状況であります。

## 平山議員

最後に、私は今回のいろいろな責任は知事が全て負うべきだと思います。私は、部長方が今の状態では知事に言えなかったと思います。ですから、今度はそれを变えて、部長も知事にいろいろなことを進言できるような体制づくりをお願いしたいと思います。知事、最後に県民の皆さんに一言言っていただければありがたいと思います。

## 知事

改めて正に大変不名誉な事態に至ったということは、全て私の不徳のいたすところです。そういう意味で、県民の皆さんの信頼を損ね、また県庁に対するいろいろな目が厳しくなったということについて、これは全部私の責任ですので、心からおわびを申し上げたいと存じます。今後、もし許されるのであれば、しっかり仕事を前進させることによって、少しでも、一歩でも前に県勢を進めることによって、この不名誉な事態を挽回する機会を与えていただければ幸いに存じます。改めておわびを申し上げます。

## 平山議員

終わります。

## 座長（議長）

以上でもりやま会派の質疑は終了いたしました。

これをもちまして予定された質疑は全て終了いたしました。

最後に、私なりの所感を述べさせていただきたいと思います。

本日の全員協議会では、知事及び執行部に対して大変に厳しい意見や批判、要望などがありました。執行部としては、県職員は知事にしっかりとした情報伝達や進言をしなければならない立場にあるということを再認識しなければならないと思います。また、このような災害時の知事への連絡体制にも重大な課題があることは明らかですから、知事への連絡手段を含め、しっかり見直しをしていただきたいと思います。

特に今般の知事の対応は、極めて緊張感を欠き、県民からの信頼を著しく損ないかねないものと感じております。職を辞すべきとの意見などもあったところであり、知事にはそうした厳しい意見を真摯に、かつ重く受けとめ、今後緊張感を持って当面の災害復旧を含め、県政の信頼回復に向けた努力をしていただきたいと思います。

また、今回の大雨による災害対応については、我々県議会としても執行部と連携して迅速に対応していく必要があり、早期の復旧に万全を期していきたいと考えておりますので、よろしく願います。

それでは、長時間にわたり大変お疲れ様でございました。

これで全員協議会を閉会いたします。

午後 4 時 5 0 分 閉会